

庄内川河川事務所 50年のあゆみ



平成31年4月

国土交通省中部地方整備局
庄内川河川事務所

第1.1版

2020.1作成

庄内川河川事務所開設50周年にあたって

庄内川河川事務所長 西 修

庄内川は、その源を岐阜県恵那市の夕立山に発し、岐阜県内では土岐川と呼ばれています。岐阜県内では土岐市や多治見市などの盆地を貫流し、愛知県内では日本最大のゼロメートル地帯である濃尾平野を流れ下った後に伊勢湾に注いでいる、幹川流路延長96km、流域面積1,010km²の一級河川です。下流域に中部圏最大の都市である名古屋市が位置することもあり、中部地域における社会・経済・文化の中心地域を流れている河川です。

庄内川の管理者は、時代によって国や県に代わってきましたが、昭和44年(1969年)に国の管理となってから今年で50年を迎えます。また、今年、土岐川が昭和49年に国の管理となってから45年。そして、小里川ダムが平成16年に管理を開始してから15年という節目の年となります。

この50年を振り返りますと、下流部においては引堤や堤防整備、名古屋市の公園整備と合わせた小田井遊水地の整備、そして平成12年9月東海豪雨による甚大な被害に対する河川激甚災害対策特別緊急事業や国道1号一色大橋の架替え等を実施してきました。中流部では、名古屋市守山区や春日井市の土地区画整理事業にあわせた堤防整備、平成23年9月洪水での名古屋市下志段味地区における堤防越水などによる浸水被害に対する堤防嵩上や河道掘削等の緊急対策などを実施してきました。土岐川においては、土岐津引堤や平和町引堤、平成11年6月洪水対応として土岐川河川災害復旧等関連緊急事業、更に平成23年9月洪水による甚大な被害の緊急対応として土岐川左岸浸水対策事業、そして小里川ダムの整備を実施してきました。

これら事業の実施により、治水安全度は大きく向上しましたが、いまだ庄内川・土岐川の洪水に対する安全度は決して高い状況とは言えません。現在、平成27年9月関東・東北豪雨を受け策定した『水防災意識社会 再構築ビジョン』における「洪水はん濫を未然に防ぐ対策」の一環として、緊急的な流下能力対策としての河道掘削を、また、『防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策』における「水害・土砂災害から命を守るインフラの強化」として樹木伐採・河道掘削、堤防強化等の事業を実施してきており、引き続き安全度の向上を図っていきます。また、「住民目線のソフト対策」として、流城市町と連携したタイムラインの策定等を推進していきます。

これまでの50年間の諸先輩方の功績や地域との関わりを引き継ぎながら、今後とも、国際中枢都市名古屋を含む日本最大のゼロメートル地帯および岐阜県東濃地方における、『人命被害ゼロ』『社会経済被害の最小化』を目指して、ハード・ソフト対策を一体的に進めていきます。地域の皆さんに愛される土岐川・庄内川を目指し、これからの50年に取り組んで参りますので、関係される皆さまの引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

平成31年4月

目 次

1. 名古屋城下を守るために始まった
庄内川の治水事業 *P. 1*

2. 庄内川河川事務所50年のあゆみ *P.11*
～昭和44年（1969年） 事務所開設以降の取組～
 - 1) 概要
 - 2) 年表
 - 3) 位置図
 - 4) 主な取組概要

1. 名古屋城下を守るために始まった 庄内川の治水事業

※本節は、庄内川流域の特性、江戸時代から昭和の伊勢湾台風までの水害および治水事業についてまとめたものであり、「河川 2019年1月号 特集 大河川の歴史 ～多摩川・庄内川～」を引用したものである。

名古屋城下を守るために始まった庄内川の治水事業

1. はじめに

庄内川流域の地形を大別すると、瑞浪、土岐、多治見の3つの盆地と渓谷、山地からなる上流域と、低平地のある平野部からなる中下流域となっている。洪水氾濫が発生した場合、この地形特性により、上流域では氾濫する範囲は狭く限定されるが、中下流域では河川の水位が高くなると堤内地盤高よりも高くなり、氾濫流が拡散し広範囲が浸水することとなる。

また、中下流域の低平地には名古屋市をはじめとした中部圏の中核機能が集中しており、洪水氾濫は当該地域に甚大な被害を及ぼすだけでなく、我が国全体の社会・経済にも大きな打撃をもたらすことになる。

(図-1)

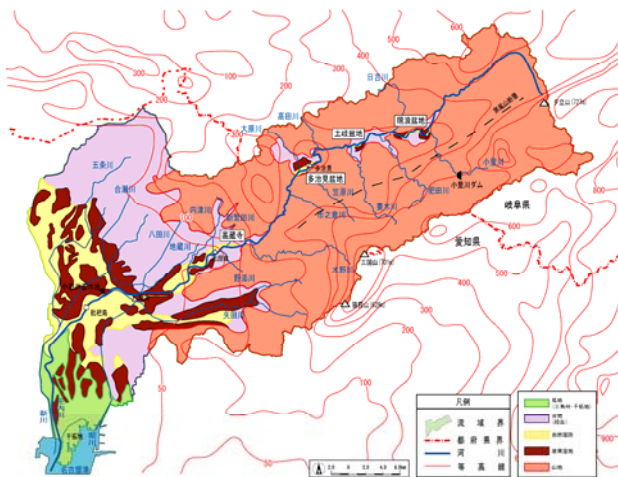


図-1 庄内川流域の地形図

庄内川は、それぞれの流域において、違った名称をもっていた河川であったが、「庄内川、東春日井郡、玉野川の末にして、其遠源は美濃恵那郡に出て土岐川と言う、西春日井郡に至り庄内川の名あり、けだし、山田庄内の巨流の謂なり。新川を分ち、又矢田川を容れ、遙かに名古屋の北西を繞り、下の一色の南に於いて海に入る。下游味鏡以下五里、名古屋及び其西郊に幾多の渠溝を通じ頗灌漑運漕の利便を生ず。」と大日本地名辞書（吉田東伍氏）に記載されている。（河川の名称については不明な点が多い中、発源地の名称がつかることが多くある）この説明からも庄内川の名称は、愛知県西春日井郡内に至りはじめてみられ、春日井市付近では玉野川、さらには美濃（岐阜県）に入っては土岐川と呼んでいたことが分かる。山田庄の正確な所在地域を決めることは困難であるが、地域の状況を総合してみると名古屋城下北部の水田地域から北方地域、さらには矢田川流域（現在の名古屋市守山区）を含んだ所が山田村と推定される。このことから「山田庄」内を流れる河川であることから庄内川という名称が起源となった。（庄とは・・・奈良時代、生産物を貯蔵するためのいくつかの倉屋を中心として若干の園地が付属していた経営単位としての地域のこと）

水害の状況では、「尾張国愛知郡法（上）（明治22年(1889年)）」（田中栄氏）に依れば「浅水緩流舟楫の便なく、専ら灌漑に供するのみ。然れども一朝降雨に際すれば、俄に暴漲し氾濫の患あり」と記載されており、川の水は浅く、緩やかな流れであるため舟の利用は適していないことが述べられている。その上で「一朝降雨に際すれば、俄に暴漲し氾濫の患あり」といった、洪水が発生する河川であることが分かり、豪雨では一度に水量が増し、時には氾濫していたことが伺える。

2. 江戸時代からの水害

江戸時代以降の主な水害は表-1に示すとおりであり、今日では考えられないほど多数の水害が発生していた。記録にないものもあるとすれば、沿川は毎年のように被害を受けていたものと考えられる。

もう一つ特徴的なことは堤防決壊が、右岸側の中流域で起きていることである。

江戸時代の洪水のうち最も被害が大きかったものは、宝暦7年(1757年)といわれている。「被害の規模は、堤防の破損が1,361ヶ所、23,650間、美濃78ヶ所1,950間、水田の被害322,300余石、救援のための食料が、白米135石余、餅米38石、味噌94貫余」となっている。

表-1 江戸時代(1600年代~1800年代)の主な水害

年(西暦)	月	水害と治水	左岸 決壊	右岸 決壊
寛永 1年(1624)	6	東春日井郡上条町地内(現春日井市)にて右岸決壊。		●
寛永 3年(1626)	4	生棚(現名古屋市区)にて氾濫。		
	8	東春日井郡上条村地内にて氾濫。		
寛永 9年(1632)	8	枇杷島橋流出。味鏡、大野木(現名古屋市)にて右岸決壊。		●
寛文 3年(1663)	4	生棚(味鏡)付近にて決壊。		●
寛文 6年(1666)	8	水場(現名古屋市区山田町平田)にて右岸決壊。		●
延宝 2年(1674)	8	右岸で決壊。		●
貞亨 4年(1687)	8	庄内川が氾濫。		
元禄14年(1701)	8	杣、法界門(五条川の合流点)にて右岸決壊。		●
宝永 1年(1704)	6	東春日井郡和爾良村字御油東(現春日井市)で右岸決壊。		●
宝永 3年(1706)	8	東春日井郡和爾良村字御油東で右岸決壊。		●
正徳 4年(1714)	8	味鏡堤にて決壊。		●
正徳 5年(1715)	5	庄内川、矢田川が氾濫。		
享保 6年(1721)	7	庄内川が氾濫。		
元文 4年(1739)	8	西万場の南方にて左岸決壊。	●	
寛延 3年(1750)	4	生棚(味鏡)付近にて破堤。八田川にて一部決壊。		●
宝暦 7年(1757)	5	味鏡、比良、大野木(現名古屋市)、土器野(現清須市)小田井、如意(現名古屋市)等にて右岸破堤。 上条、志段味、印場等(現名古屋市)にて矢田川決壊 御林(現名古屋市)付近、法界門橋付近にて八田川決壊	(●矢)	(●八)
明和 2年(1765)	4	味鏡付近にて右岸決壊。		●
	8	庄内川が氾濫。		
明和 4年(1767)	7	比良、大野木、土器野、松原(現清須市)、小田井等にて右岸決壊。 矢田川は猪高村で左岸決壊。	(●矢)	●
安永 8年(1779)	7	味鏡、比良、大野木にて右岸決壊。		●
	8	志段味、上条、味鏡、比良、大野木にて右岸決壊。		●
天明 1年(1781)	8	東春日井郡和爾良村字御油(現春日井市)で右岸決壊。		●
天明 3年(1783)	7	大野木(現名古屋市)にて決壊		●
天明 4年(1784)	8	和爾良(現春日井市)、上条(現春日井市)にて決壊。 新川開削着手(天明治水)		●
天明 7年(1787)		新川開削完了		●
寛政 1年(1789)	8	東山畑(現名古屋市区桶町)にて決壊		●
文化12年(1815)	6	枇杷島小橋流出。諸川溢水。		
天保 1年(1830)	7	辻村にて左岸決壊。	●	
天保10年(1839)	8	大留村杣の口(現春日井市)にて決壊。		●
天保15年(1844)	8	東春日井郡和爾良村字北御油で決壊。		●
弘化 3年(1846)	7	東春日井郡下津尾村安丸野(現春日井市)にて右岸決壊。		●
嘉永 2年(1849)	8	味鏡(現名古屋市区)にて決壊。		●
嘉永 3年(1850)	8	味鏡、比良(現名古屋市内)、和爾良、下津尾(現春日井市)にて決壊 瀬戸村にて矢田川決壊。	(●矢)	●
嘉永 6年(1853)	8	東春日井郡神領村字海東(現春日井市)にて決壊。		●
嘉永 7年(1854)	5	東春日井郡松河戸町一ツ橋(現春日井市)にて決壊。		●
	8	東春日井郡神領村字海東にて決壊。		●
安政 2年(1855)	7	味鏡、名栗、大留村江向(現春日井市)、上正光寺(現春日井市)、上条にて決壊。 矢田川が決壊。	(●矢)	●
安政 3年(1856)	7	東春日井郡勝川村字松ノ内(現春日井市)にて決壊。		●
安政 4年(1857)	8	東春日井郡勝川村東切野、西切野(現春日井市)にて決壊。		●
安政 6年(1859)	6	東春日井郡松河戸村(現春日井市)にて決壊。		●
文久 3年(1863)	不明	勝川村地内(現春日井市)にて決壊。※流域誌より		●
慶応 1年(1865)	5	瀬古村(現名古屋市区守山区)、中切村(現名古屋市区西区)にて左岸決壊 味鏡村、勝川村にて右岸決壊。	●	●
慶応 3年(1867)	8	松河戸村、八反田にて決壊。		(●八)

尾張国はもともと清須城（現在の清須市）とその城下町を中心としており、この地は水害に弱い土地であった。天正13年（1585年）には天正大地震によって、清須城とその土地は液状化の被害を受けた。

徳川家康は関ヶ原の戦いのあと、西に構える大阪の豊臣家との勢力争いが極まり、それに対抗するためにもより強靱な根城が必要となっていた。

そこで徳川家康は、天下普請を行い、新たな拠点として熱田台地の上に名古屋城を築いたのが慶長15年（1610年）のことである。その際、清須在住の商人や職人、寺院、神社等の大部分は武士と一緒に名古屋城下町へ引っ越し、清須城も名古屋城築城のその資材として利用された。特に、名古屋城御深井丸西隅櫓は清須城天守の資材を使って造られたことから「清須櫓」と呼ばれている。名古屋城築城に伴う清須城からの人や建物の大規模な引っ越しのことが、「清州越」であり、尾張の都が庄内川を挟んで右岸側から左岸側に移動することになった。このことは、その後の治水に大きな意味を持つこととなった。（図-2）

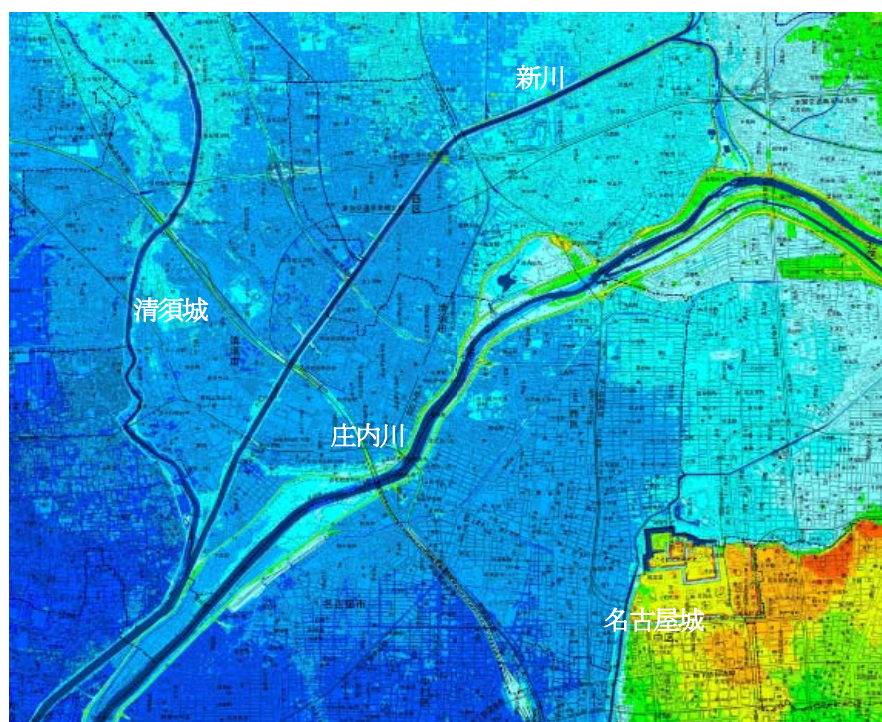


図-2 清須越（きよすごし）
（出典：国土地理院のデータを加工）

庄内川が増水して危険になると、尾張藩は名古屋城下を水害から守るため、役人をつかわして川向こうの小田井村の堤を切らせることを命じた。小田井村の人々は、堤を切れば自分たちの家や田畑が大被害を受けるため、表面上は一生懸命働くふりをし、実際には少しも能率を上げずにわざと時間を延ばし、ひたすら水が引くのを待った。このような史実から、怠け者を表す「小田井人足」の語が起ったといわれている。現在小田井の地は遊水地が整備され、庄内川下流域の洪水被害の軽減に寄与している。

3. 江戸時代からの治水事業

庄内川は、過去から幾度となく堤防決壊を繰り返し、その決壊のほとんどは右岸側で起こっていた。これは、名古屋城の城下町を守るためであり、当時の庄内川の堤防は、左岸側に比べて右岸側が低く造られていた。

尾張藩の奨励もあって、瀬戸地方を中心に焼き物が盛んになり、このため山が荒廃し流出土砂が増大していた。そのうえ、木津、新木津用水の開削により、庄内川河口付近の一帯の干拓が進められ、従来下之一色付近が河口であったものが、数キロも流路が先に延ばされ、川の流れが悪くなっていた。

明和2年（1765年）、明和4年（1767年）、そして安永8年（1779年）と大きな水害が発生し、作為的に右岸堤を決壊させた回数もあるが、圧倒的に右岸での堤防決壊が多く、味鏡村（現在の名古屋市北区）より五条川合流点までの地域に集中していた。

尾張藩の第9代藩主の徳川宗睦はこの地の民を安んずるためにも一大普請を命じた。「堤防の補強」、「河床の浚渫」、「河川の断面積の拡大」、「排水河川の開削」の4案が検討された。最終的には沼地化した大蒲沼（現在の名古屋市西区、北区）や五条川の排水を考慮して「排水河川の開削」が行われることになった。庄内川に平行して16kmにおよぶ新川を掘削し、地蔵川や木津川用水、五条川といった、それまでは庄内川に流入していた中小河川を新川に流入させた。さらに洗堰（延長約56m、庄内川の洪水が五合を超えるようになると溢流をし始める高さに設定。構造は木組みで石籠を並べ両側は石積）を設けることで本川の増水時に新川へ溢水させ、名古屋城下を守ることを計画した。これらの事業は、天明4年（1784年）に着工し、天明7年（1787年）に完成した大普請であったことから「天明の治水」と呼ばれている。（図-3、写真-1）

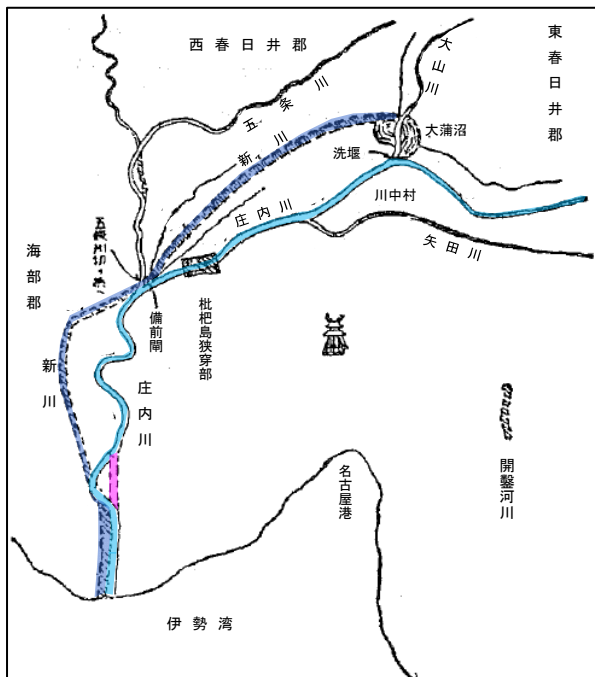


図-3 天明の治水



写真-1 修繕洗堰碑

明治以降も洪水の発生は治まらず、明治22年（1889年）、明治29年（1896年）には洗堰より下流でも堤防が決壊し、出水のたびに洗堰は破壊と復旧を繰り返していた。そんな状況のなかで築造後150年を経て、明治16年（1883年）に洗堰の大修繕が行われることとなった。これ以後、洗堰は強固に改築されたため、破壊されることは無くなった。

(図-4)

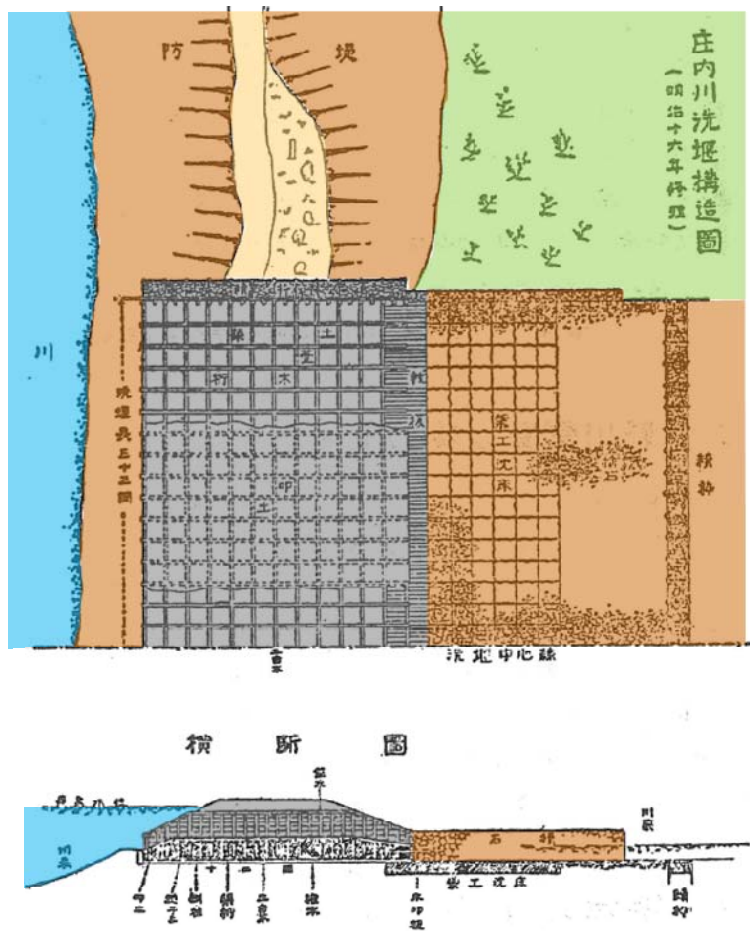


図-4 明治16年(1883年) 庄内川洗堰構造図

4. 昭和時代からの治水事業

明治維新により新政府が樹立されると富国強兵策の一貫として、木曾川などの大河川の河川改修事業は国の直轄事業として施行されるようになったが、その他の中・小河川の改修事業は地域主義の建前がとられた。通常の河川改修は関係市町村費と県費の負担により実施され、大災害の災害復旧費のみが国費補助の対象となっていた。治水事業への積極的な取り組みとして愛知県は、相次いだ洪水に対し、大正4年に県の中で「臨時治水調査委員会」を設立し、審議が重ねられた結果、庄内川において大正6年(1917年)より8箇年にわたり河川改修工事を実施することが決定された。

昭和初期は、世界的な経済の不況期で、失業者があふれており雇用の促進が求められていた中、昭和17年(1942年)から直轄河川改修事業として22年まで実施されたが、戦時色の強い軍事優先の事業が進められた。昭和25年(1950年)から直轄改修時に作成された改修計画に基づき、再び愛知県の手によって、中・小河川改修工事として改修工事が昭和44年(1969年)まで進められることになった。

・愛知県による治水事業

愛知県が実施していた治水事業として矢田川の付け替えや中島撤去があり、矢田川は現在の流路になるまで、小田井遊水地の下流あたりから庄内川に合流していた。2つの河川が合流するすぐ上流には、集落が存在し、堤防に囲まれた輪中地域でその名称も川中村と呼ばれる地域であった。2つの河川に挟まれていた川中村は、洪水の被害を頻繁に受けていたため、村の人々は家屋を水屋のように高く石垣を積み、神社も高く盛土するなど対策を行っていたが、抜本的な対策を施さない限り、この地を守る術はなかった。そんな状況のなかで、県の計画によって村の振興を図るために矢田川の付け替え工事が行われ、工事は昭和7年(1932年)に完了した。(写真-2)

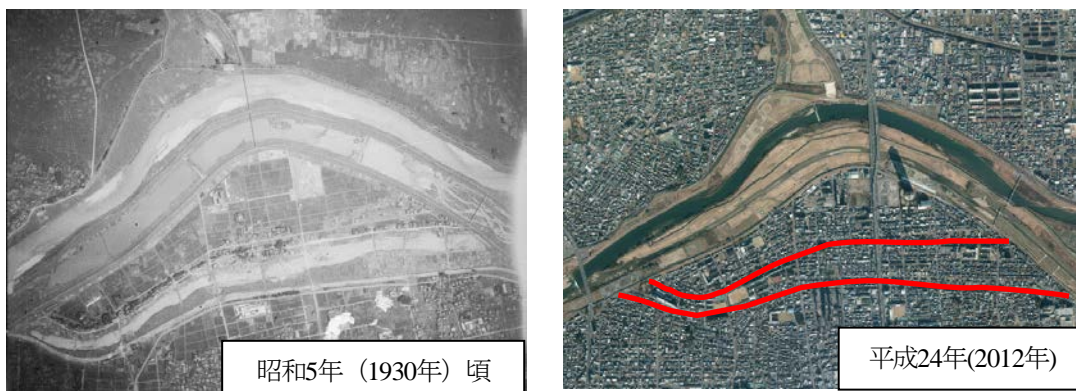
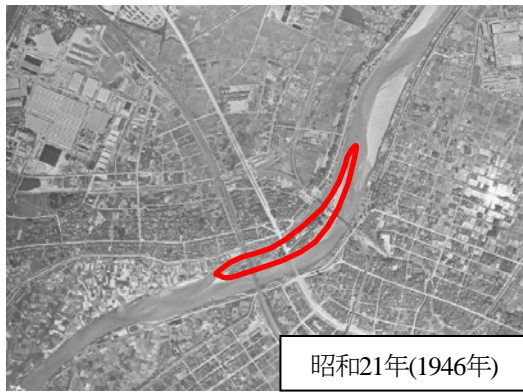


写真-2 矢田川の付け替え前後

庄内川の河口から14~15kmの場所は、県道枇杷島橋とJR東海道本線、JR東海道新幹線の3橋が架かる最狭窄部となっている。昔は、そこに中島も存在しており、水害に対して非常に脆弱な場所となっていた。中島の大きさは長さ500~600m、最大幅50m程度とかなり大きいものであった。島には数棟の家屋や高い樹木が繁っており、一部は耕地としても使われていた。またこの島は「枇杷島」と呼ばれ、兩岸付近一帯は、徳川家康の“お墨付”をもらった青果市場であった。枇杷島橋を中心とした風景は「尾張名所図絵」に描かれ、松尾芭蕉も詩に詠むなど、美しい景観をみせていた。この地は弘化2年(1845年)に藩命によって両岸堤に数千本の桜が植えられ、名勝の地となっていた。

しかし、治水上からみると、そこは当時最大の懸案となる地点であり、人々の命を守るため中島の撤去が昭和25年(1950年)から昭和33年(1958年)にかけて行われることとなった。(写真-3, 4)



昭和21年(1946年)



平成24年(2012年)

写真-3 中島の撤去前後



写真-4 中島の撤去工事

・上流部における治水事業

土岐川（庄内川）は、大原川の合流点付近から大きく多治見市池田町の方向に湾曲していた。しかもすぐ下流で山裾に衝突したのち、逆流して狭窄部に流入するという流路をたどっていた。このため脇之島町（現在の多治見市昭和町）や池田町は、洪水のたびごとに浸水していた。

明治24年（1892年）の濃尾大地震による堤防被災を受けて、抜本的な河川改修として新河道の開削が計画された。大原川の合流点付近から下流の狭窄部の飲み口に向かって、直線的に新河道を付け替えるものであった。しかし、それによって生活の基盤が失われることとなった人々からは、「土岐川は往古より土岐郡・可児郡の郡界をなしてきた。今やこの天然の地形を乱し、その区域を短縮し、どこが境界かを識別することに苦しむような不便をもたらすことは、数千年来の旧慣を乱破するものである。」といった地元からの猛反発があった。よって一度は地元の反対により取り止めとなったが、その後、昭和4年（1929年）の洪水を契機に再び計画されることとなり、昭和8年（1933年）に着工し、昭和11年（1936年）に完了した。（写真-5）



昭和20年(1945年)



平成24年(2012年)

写真-5 脇之島地区新河道掘削の前後

・伊勢湾台風被害に対する治水事業

伊勢湾台風は、超大型台風でしかも東海地方の西を通ったために東海地方は暴風雨となった。特に伊勢湾周辺の風は激烈をきわめた。台風の中心を通過する前2～3時間は時間雨量40～70mmの激しい雨が各所で降り、河川は急激に水位が増加した。併せて高潮により河口付近では至る所で堤防が決壊したために大災害となった。

愛知県被害は、死者3168人、行方不者92人、被災家屋は140596戸（愛知県）、6227世帯（岐阜県）であった。

河口部では、伊勢湾台風による洪水を契機に、伊勢湾等高潮対策事業を実施し、昭和38年に高潮堤防が完成した。

(写真-6, 7)



写真-6 新川右岸（港区南陽町七ツ島） 浸水状況



写真-7 庄内川左岸破堤状況

このような経緯から、昭和44年に庄内川は再び直轄管理となり、庄内川工事事務所が開設されてから平成31年度で50年を迎えましたので、この50年間のあゆみを年表、説明資料として取りまとめました。

2. 庄内川河川事務所50年のあゆみ

～昭和44年(1969年) 事務所開設以降の取組～

昭和30年以降の主な水害

発生年月日	原因	被害等
昭和32年 8月7日	秋雨前線	被災家屋:22,428戸(愛知県)、4,540棟(岐阜県)
昭和34年 9月26日	台風15号 (伊勢湾台風)	被災家屋:140,569戸(愛知県)、6,227棟(岐阜県)
昭和36年 6月27日	梅雨前線 台風6号	水害区域面積:7,374ha(愛知県)、479ha(岐阜県) 被災家屋:39,604棟(愛知県)、171棟(岐阜県)
昭和44年4月 建設省 庄内川工事事務所 開設		
昭和47年 7月12日	梅雨前線	水害区域面積:229.3ha(愛知県)、344.8ha(岐阜県) 被災家屋:832棟(愛知県)、1,515棟(岐阜県)
昭和50年 7月4日	梅雨前線	水害区域面積:3,091.5ha(愛知県)、96.9ha(岐阜県) 被災家屋:10,315棟(愛知県)、107棟(岐阜県)
昭和51年 9月8日	台風17号	水害区域面積:3,476.5ha(愛知県) 被災家屋:8,713棟(愛知県)
昭和58年 9月28日	秋雨前線 台風10号	水害区域面積:526.6ha(愛知県)、8.4ha(岐阜県) 被災家屋:7,871棟(愛知県)、164棟(岐阜県)
昭和63年 9月25日	熱帯低気圧 秋雨前線	水害区域面積:317.9ha(愛知県)、111.9ha(岐阜県) 被災家屋:1,896棟(愛知県)、94棟(岐阜県)
平成元年 9月20日	台風22号	水害区域面積:27.6ha(愛知県)、62.1ha(岐阜県) 被災家屋:84棟(愛知県)、571棟(岐阜県)
平成3年 9月19日	台風18号 秋雨前線	水害区域面積:965.9ha(愛知県)、3.9ha(岐阜県) 被災家屋:6,440棟(愛知県)、16棟(岐阜県)
平成11年 6月30日	梅雨前線	水害区域面積:11ha(岐阜県) 被災家屋:1棟(愛知県)、120棟(岐阜県)
平成12年 9月12日	秋雨前線 台風14号 (東海豪雨)	水害区域面積:10,476.6ha(愛知県)、10.5ha(岐阜県) 被災家屋:34,041棟(愛知県)、8棟(岐阜県)
平成23年 9月20日	台風15号	水害区域面積:186.5ha(愛知県)、1.6ha(岐阜県) 被災家屋:670棟(愛知県)、16棟(岐阜県)

出典) 昭和32年～平成12年洪水:「庄内川水系河川整備計画」より。
平成23年洪水:「水害統計」より。

昭和34年9月洪水(伊勢湾台風)
新川右岸の状況



昭和47年7月洪水(梅雨前線)
土岐市内の状況



平成元年9月洪水(台風22号)
土岐小学校付近の状況



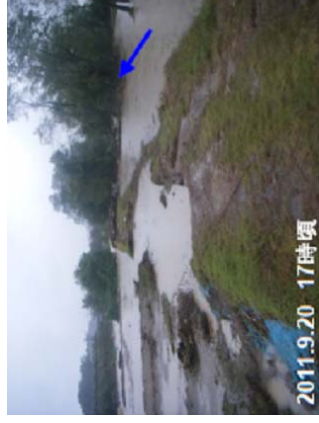
平成11年6月洪水(梅雨前線)
土岐市内の状況



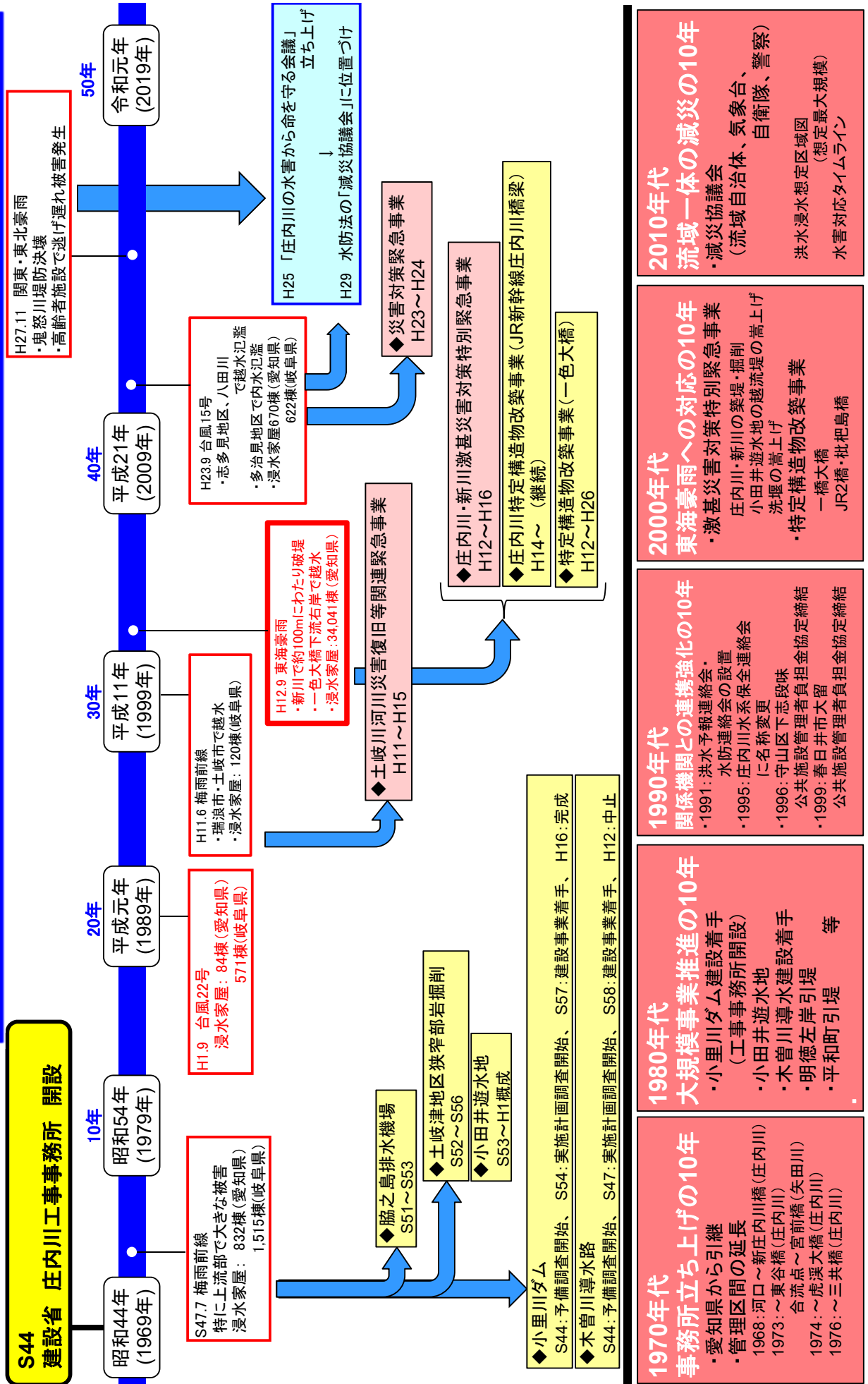
平成12年9月洪水(東海豪雨)
新川決壊地点の状況



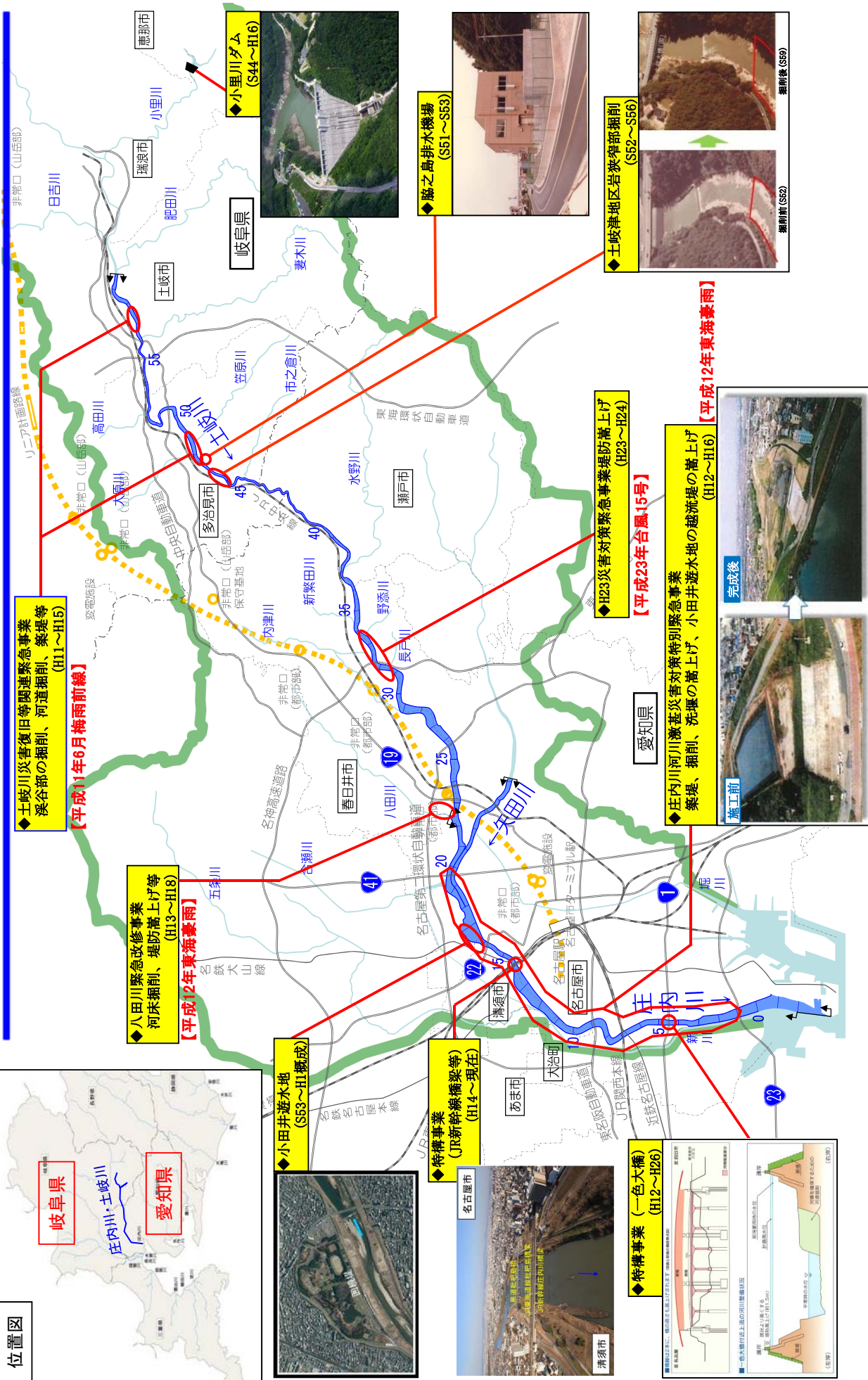
平成23年9月洪水(台風15号)
下志段見地区の越水状況



庄内川河川事務所の50年の歩み



庄内川の50年間の主な治水対策



事業効果(東海豪雨後の激特事業等)

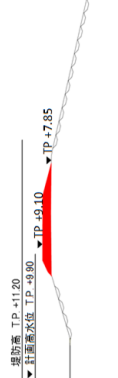
- 東海豪雨による浸水被害を踏まえ、河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)、一色大橋の架け替えを行うとともに、小里川ダムが完成。
- 平成12年9月の東海豪雨と同規模の降雨が発生した場合、庄内川・新川沿川の被害総額は約6,700億円から約1,200億円に激減(H16河道を用いた試算)。

河川激甚災害対策特別緊急事業

築堤・堤防強：13.6km



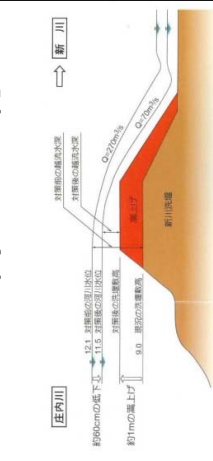
小田井遊水地の改築
(越流堤約1.3m高上げ)



河道掘削：約140万m³



洗堰の高上げ(約1m)



一色大橋の架け替え



平成18年の状況

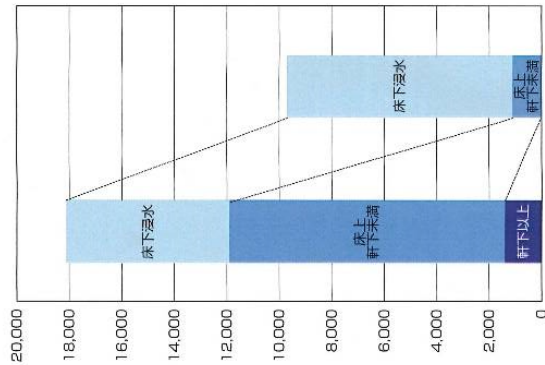
平成23年の状況

小里川ダム

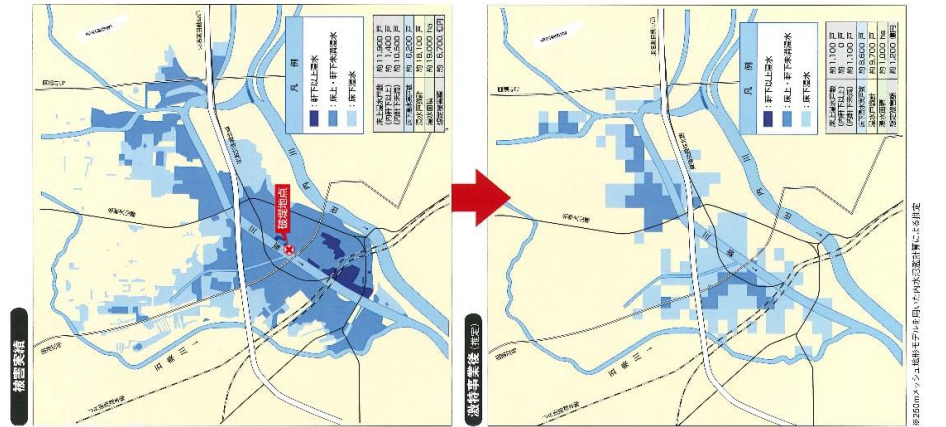


被害軽減効果

●浸水被害軽減戸数内訳



※効果には、庄内川の対策だけでなく、新川の河川改修、内水ポンプの増強等による効果も含む。



年 表

年号	西暦	主な出来事	概要資料番号
昭和34年	1959年	伊勢湾台風(台風15号)	1
昭和36年	1961年	梅雨前線・台風6号	2
昭和38年	1963年	伊勢湾等高潮対策事業による高潮堤 [名古屋市港区]	3
昭和43年	1968年	一級水系指定・直轄区域指定(庄内川本川:河口~17.6k)	
昭和44年	1969年	建設省 庄内川工事事務所 開設	
		庄内川水系工事実施基本計画策定	
		木曾川導水予備調査着手	
		小里川ダム予備調査開始	
昭和45年	1970年	直轄河川都市環境整備事業採択	
昭和47年	1972年	梅雨前線(被災家屋:2347棟)	2
		木曾川導水実施計画調査着手	
昭和48年	1973年	直轄区域編入(庄内川本川:17.6k~35.4k、矢田川:合流点~7.0k)	
		明德左岸引堤着手 [名古屋市港区]	7
		庄内川水系水質汚濁対策連絡協議会設立	
昭和49年	1974年	直轄区域編入(庄内川本川:35.4k~50.5k)	
昭和50年	1975年	梅雨前線(被災家屋:10422棟)	2
		庄内川水系工事実施基本計画改定	
昭和51年	1976年	台風17号(被災家屋:8713棟)	2
		直轄区域編入(庄内川本川:50.5k~59.6k)	
		脇之島排水機場着手 [多治見市]	4
		大蠶螂地区暫定改修着手 [名古屋市中川区]	6
昭和52年	1977年	土岐津地区狭窄部岩掘削着手	
		緊急用河川敷道路整備着手	
昭和53年	1978年	脇之島排水機場 [多治見市]	4
		小田井遊水地着手 [名古屋市西区]	
昭和54年	1979年	土岐津地区狭窄部岩掘削完成 [土岐市]	5
		小里川ダム実施計画調査開始	
昭和57年	1982年	大蠶螂地区暫定改修概成 [名古屋市中川区]	6
		土岐津引堤着手	
		小里川ダム建設事業着手	
		小里川ダム工事事務所設置	

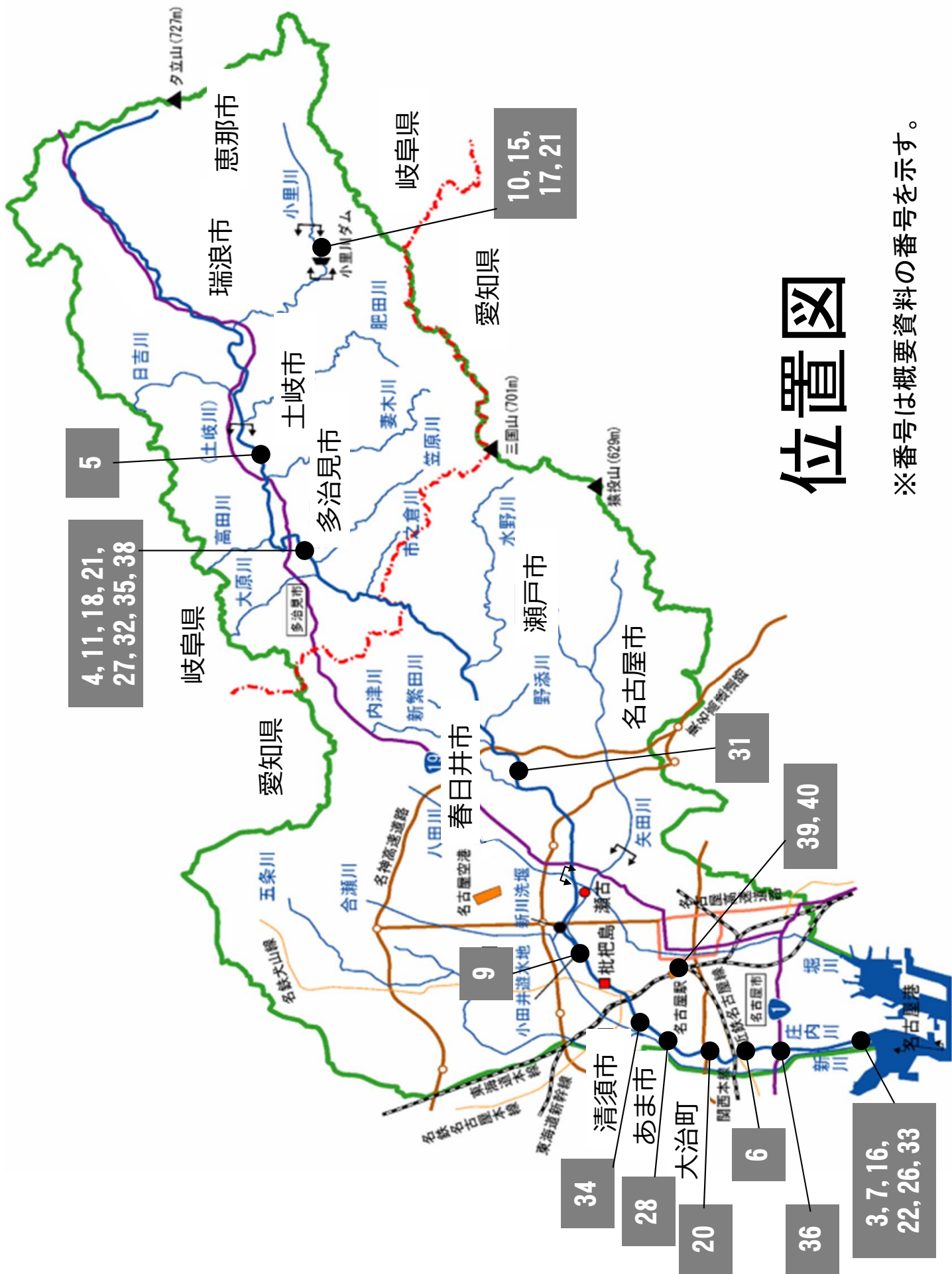
年号	西暦	主な出来事	概要資料番号
昭和58年	1983年	秋雨前線・台風10号(被災家屋:8035棟)	2
		直轄区域編入(八田川:合流点~4.48k)	
		明德左岸引堤完成 [名古屋市港区]	7
		木曾川導水建設事業着手	
昭和59年	1984年	小里川ダム工事用道路着手	
昭和60年	1985年	平和町引堤着手	
昭和62年	1987年	りばーびあ庄内川開始	
昭和63年	1988年	熱帯低気圧・秋雨前線(被災家屋:1990棟)	2
		矢田川浄化事業着手	
		土岐市土岐津町(土岐津地区) 用地測量 用地買収開始	
平成元年	1989年	台風22号(被災家屋:655棟)	8
		小田井遊水地概成 [名古屋市西区]	9
平成3年	1991年	台風18号・秋雨前線(被災家屋:6456棟)	2
		洪水予報連絡会・水防連絡会設置	
平成6年	1994年	庄内川水系工事実施基本計画部分改定	
		小里川ダム転流開始 [瑞浪市]	10
平成7年	1995年	平和町引堤完成 [多治見市]	11
		庄内川水系水質保全連絡協議会に名称変更	
平成8年	1996年	守山区下志段味 公共施設管理者負担金協定締結	
		小里川ダム本体コンクリート初打設	
平成9年	1997年	小里川ダム本体内工定礎式	
		小里川ダムが地域に開かれたダムに指定	
平成10年	1998年	木曾川導水事業再評価	
		守山区上志段味 公共施設管理者負担金協定締結	
平成11年	1999年	梅雨前線(被災家屋:121棟)	12
		土岐川河川災害復旧等関連緊急事業着手	
		庄内川から堀川への試験導水実施	
		春日井市大留 公共施設管理者負担金協定締結	

年号	西暦	主な出来事	概要資料番号
平成12年	2000年	東海豪雨 秋雨前線・台風14号 (被災家屋:34049棟)	13, 14
		特定構造物改築事業(一色大橋)着手	
		庄内川・新川激甚災害対策特別緊急事業着手	
		志段味地区水辺整備事業工事開始	
		木曾川導水事業中止	
平成13年	2001年	堀川上流部暫定導水開始	
		西枇杷島町井下見取(激特) 用地買収開始	
		中川区大蠟螂 用地測量 用地買収開始	
		庄内川排水ポンプ場運転調整要綱策定(一色大橋TP3.42m)	
		小里川ダム本体コンクリート打設完了 [瑞浪市]	15
		小里川ダム管理所設置(小里川ダム工事事務所)	
平成14年	2002年	藤前干潟ラムサール条約湿地登録 [名古屋市港区]	16
		庄内川特定構造物改築事業(JR新幹線庄内川橋梁)着手	
		土岐川自然ふれあい広場(水辺の楽校)登録	
		多治見市土岐川観察館(水辺の楽校)登録	
		中村区稲葉地 激甚災害対策特別緊急事業 用地買収	
		甚目寺町下萱津 激甚災害対策特別緊急事業 用地買収開始	
		中川区万場 激甚災害対策特別緊急事業 用地買収開始	
		中川区長須賀 激甚災害対策特別緊急事業 用地買収開始	
		中川区長須賀 激甚災害対策特別緊急事業 用地買収完了	
小里川ダム試験湛水開始 [瑞浪市]	17		
平成15年	2003年	土岐川庄内川流域委員会設置	
		庄内川直轄河川改修事業再評価	
		土岐川河川災害復旧等関連緊急事業完成 [多治見市・土岐市]	18
		庄内川中流部浄化事業(実験)着手	
		中村区稲葉地 激甚災害対策特別緊急事業 用地取得完了	
		西枇杷島町井下見取 激甚災害対策特別緊急事業 用地買収完了	
		庄内川アダプト制度開始	19

年号	西暦	主な出来事	概要資料番号
平成16年	2004年	庄内川河川激甚災害特別緊急事業完成 [名古屋市 中村区・中川区]	20
		大治町子どもの水辺(水辺の楽校)登録	
		志段味地区水辺整備事業完成	
		庄内川中流域水環境改善対策協議会設置	
		甚目寺町下萱津 激甚災害対策特別緊急事業 用地買収完了	
		大治町堤添 激甚災害対策特別緊急事業 用地買収完了	
		中川区万場 激甚災害対策特別緊急事業 用地買収完了	
		土岐市土岐津町(土岐津地区) 用地買収完了	
		小里川ダム建設事業工事完成 [瑞浪市]	21
		小里川ダム管理所へ改称(工事事務所から管理所へ)	
		藤前干潟クリーン大作戦 開始 [名古屋市港区]	22
平成17年	2005年	庄内川水系河川整備基本方針策定	
		港区当知町(当地地区) 用地買収開始 用地買収完了	
		豊岡地区水辺整備事業工事開始	35
		庄内川排水ポンプ場運転調整要綱改定(一色大橋TP4.2m)	
平成18年	2006年	八田川緊急改修事業完成 [名古屋市 守山区・春日井市]	23
		矢田川子どもの水辺(水辺の楽校)登録	
		矢田川地区水辺整備事業工事開始	
		西枇杷島地区水辺整備事業工事開始	34
		春日井市神領 公共施設管理者負担金協定締結	
平成19年	2007年	堀越・小田井地区水辺整備事業完成	
		浸水想定区域図(計画規模)公表	24
		春日井市神領 公共施設管理者負担金協定締結	
		中川区大蠍螂 用地買収完了	
		庄内川堤防道路(清須市管理区間)における出水時通行規制に関する協定書締結	
		子供達への環境教育の支援開始	25
平成20年	2008年	庄内川水系河川整備計画【大臣管理区間】策定	
		直轄区域変更(八田川を愛知県に移管)	
		庄内川河口部水辺整備事業工事開始 [名古屋市港区]	33
		みなと川まちづくりを考える会発足 [名古屋市港区]	26

年号	西暦	主な出来事	概要資料番号
平成21年	2009年	なごや港庄内川子ども水辺(水辺の楽校)登録	
		みずとぴあ庄内子ども水辺(水辺の楽校)登録	
		春日井市大留 公共施設管理者負担金協定締結	
		庄内川堤防道路(春日井市管理区間)における出水時通行規制に関する協定書締結	
		多治見かわまちづくり協議会発足 [多治見市]	27
		清須かわまちづくり協議会発足 [清須市・あま市・大治町]	28
平成22年	2010年	庄内川自然再生計画書策定 庄内川上流部自然再生事業着手	
		庄内川堤防道路(あま市管理区間)における出水時通行規制に関する協定書締結	
		小里川ダム管理支所開設 (管理所から、事務所の支所へ)	
平成23年	2011年	台風15号(被災家屋:686棟)	29, 30
		志段味地区災害復旧工事着手 H23災害対策緊急事業着手	
		庄内川中流部浄化事業中止	
平成24年	2012年	志段味地区災害復旧工事完成 H23災害対策緊急事業完成 [名古屋市守山区]	31
		多治見市浸水対策実行計画策定 [多治見市] (関連河川整備 脇之島川合流処理、脇之島川整備、 土岐川水位低下対策 等)	32
		庄内川河口部水辺整備事業工事完成 [名古屋市港区]	33
		庄内川河川維持管理計画策定	
		災害又は事故における国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所所管施設の緊急的な応急対策の支援に関する協定書締結 (庄内川災害対策協力会、恵那建設業協会、多治見建設業協会)	
平成25年	2013年	多治見市浸水対策実行計画関連河川整備着手 [多治見市]	32
		西枇杷島地区水辺整備事業工事完成 [清須市]	34
		豊岡地区水辺整備事業工事完成 [多治見市]	35
		多治見市脇之島(青木地区) 用地買収開始	
平成26年	2014年	特定構造物改築事業(一色大橋)完成 [名古屋市守山区]	36
		矢田川地区水辺整備事業工事完成	
		庄内川事前防災行動計画検討会設置	
		清須市下川原(岩塚地区) 用地買収開始	
		庄内川排水ポンプ場運転調整要綱改定(枇杷島橋TP8.0m)	
		河川協力団体制度開始	37

年号	西暦	主な出来事	概要 資料 番号
平成27年	2015年	水防災意識社会再構築ビジョン開始	
		庄内川決壊対応タイムライン検討案公表	
		多治見市脇之島(青木地区) 用地買収完了	
平成28年	2016年	庄内川特定構造物改築事業(国道1号一色大橋)事後評価	
		浸水想定区域図(想定最大規模)公表	
		庄内川流域の減災に係る取組方針策定	
		多治見市浸水タイムライン(H27年度版)策定 [多治見市]	38
		みなと川まちづくりを考える会閉会 [名古屋市港区]	26
平成29年	2017年	水防法第15条の9に基づく大規模氾濫減災協議会設置 (「土岐川・庄内川の水害から命を守るための合同会議」を改組)	
		清須市下川原(岩塚地区) 用地買収完了	
平成30年	2018年	多治見市浸水対策実行計画の目的達成(関連河川整備概成)[多治見市]	32
		名古屋駅地区地下空間タイムライン(共通行動版(案))策定[名古屋市]	39, 40
		庄内川河川維持管理計画改定	



位置図

※番号は概要資料の番号を示す。

昭和34年

伊勢湾台風(台風15号)

○昭和34年の伊勢湾台風は、超大型台風のまま東海地方の西を通ったために東海地方は暴風雨となった。
 ○台風の中心が通過する前2~3時間は、時間雨量40~70mmの激しい雨が各所で降り、河川の水位が急激に増加し、併せて高潮により、庄内川及び新川はえっ波により13箇所で堤防が決壊し、水徳町、南陽町が浸水し多数の人名が失われた。



出典：三河・尾張川の流れと歴史のあゆみ P10 図1-4

新川右岸(港区南陽町 セツ島) 浸水状況



新川右岸(港区南陽町 セツ島) 浸水状況



出典：伊勢湾台風災害復興誌

県別	被害	死者 (人)	行方 不明 (人)	負傷者 (人)	被災 世帯数 (世帯)	住 家 (戸)		
						流 失	全・半壊	浸 水
愛 知 県		3,168	92	59,045	173,786	3,194	20,383	116,391
(名古屋市)		(1,851)	(58)	(40,528)	(128,808)	(1,557)	(49,415)	(67,352)
三 重 県		1,246	27	4,625	67,411	12,192	5,208	79,865
岐 阜 県		86	18	1,708	15,912	113	16,251	10,915
計		4,500	137	65,378	257,109	15,499	141,842	107,171

出典：20年記念 庄内川 P156 表-4

主要洪水

○庄内川における主要洪水としては、昭和34年9月洪水(伊勢湾台風)、平成元年9月洪水、平成12年9月洪水(東海豪雨)、平成23年9月洪水等がある。

発生年月日	原因	基準地点流量 m ³ /s		被害等
		枇杷島	多治見	
昭和32年 8月7日	秋雨前線	—	—	被災家屋:22,428戸(愛知県)、4,540棟(岐阜県)
昭和34年 9月26日	台風15号 (伊勢湾台風)	—	—	被災家屋:140,569戸(愛知県)、6,227棟(岐阜県)
昭和36年 6月27日	梅雨前線 台風6号	1,520	—	水害区域面積:7,374ha(愛知県)、479ha(岐阜県) 被災家屋:39,604棟(愛知県)、171棟(岐阜県)
昭和47年 7月12日	梅雨前線	1,600	1,330	水害区域面積:229.3ha(愛知県)、344.8ha(岐阜県) 被災家屋:832棟(愛知県)、1,515棟(岐阜県)
昭和50年 7月4日	梅雨前線	1,570	1,510	水害区域面積:3,091.5ha(愛知県)、96.9ha(岐阜県) 被災家屋:10,315棟(愛知県)、107棟(岐阜県)
昭和51年 9月8日	台風17号	1,270	770	水害区域面積:3,476.5ha(愛知県) 被災家屋:8,713棟(愛知県)
昭和58年 9月28日	秋雨前線 台風10号	1,930	1,400	水害区域面積:526.6ha(愛知県)、8.4ha(岐阜県) 被災家屋:7,871棟(愛知県)、164棟(岐阜県)
昭和63年 9月25日	熱帯低気圧 秋雨前線	1,600	1,420	水害区域面積:317.9ha(愛知県)、111.9ha(岐阜県) 被災家屋:1,896棟(愛知県)、94棟(岐阜県)
平成元年 9月20日	台風22号	1,860	1,840	水害区域面積:27.6ha(愛知県)、62.1ha(岐阜県) 被災家屋:84棟(愛知県)、571棟(岐阜県)
平成3年 9月19日	台風18号 秋雨前線	2,200	1,330	水害区域面積:965.9ha(愛知県)、3.9ha(岐阜県) 被災家屋:6,440棟(愛知県)、16棟(岐阜県)
平成11年 6月30日	梅雨前線	1,950	1,490	水害区域面積:11ha(岐阜県) 被災家屋:1棟(愛知県)、120棟(岐阜県)
平成12年 9月12日	秋雨前線 台風14号 (東海豪雨)	3,520	1,500	水害区域面積:10,476.6ha(愛知県)、10.5ha(岐阜県) 被災家屋:34,041棟(愛知県)、8棟(岐阜県)
平成23年 9月20日	台風15号	3,100	1,300	水害区域面積:186.5ha(愛知県)、1.6ha(岐阜県) 被災家屋:670棟(愛知県)、16棟(岐阜県)

出典：昭和32年～平成12年洪水：庄内川水系河川整備計画より。
 平成23年洪水：基準地点流量は庄内川河川事務所資料より、被害等は水害統計より。

平成12年9月洪水(東海豪雨)
新川決壊地点の状況



平成12年9月洪水(東海豪雨)
一色大橋付近の越水状況



平成元年9月洪水(台風22号)
土岐小学校付近の状況



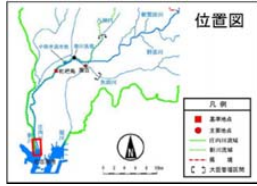
平成23年9月洪水(台風15号)
下志段見地区の越水状況



2011.9.20 17時頃

昭和38年度完成 いせわん 伊勢湾等高潮対策事業による高潮堤 [名古屋市港区]

○昭和34年の伊勢湾台風の洪水・高潮による甚大な被害を契機に、「伊勢湾等高潮対策事業」や単独災害復旧工事を実施し、昭和38年度に完成した。



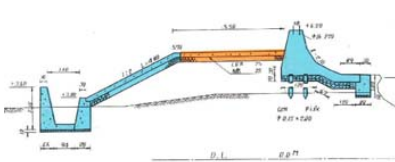
整備箇所

出典：伊勢湾台風災害復興誌 P423

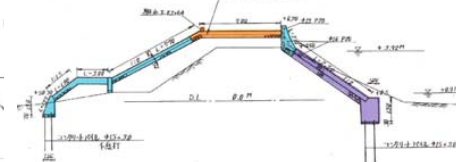
標準断面図

出典：伊勢湾台風災害復興誌

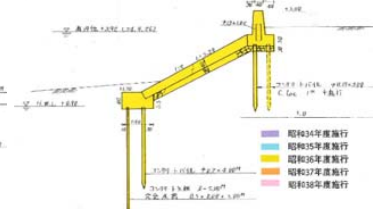
庄内川左岸



庄内川左岸



庄内川右岸



出典：伊勢湾台風災害復興誌 P227,228

3

昭和53年度完成 わきのしま 脇之島排水機場 [多治見市]

○脇之島川が土岐川に合流する一帯(平和町地先)は、土岐川の排水や内水による被害が著しく、直轄編入後樋管による計画から排水機を含めた計画へ変更し、昭和51年度に樋管工事に着手、昭和53年度に排水機場が完成した。

○平成12、13年度に至り、原動機等を更新した。



脇之島川流域図



排水機場外観 撮影：S53



主原動機 撮影：H12

脇之島川流域諸元

項目	実数
面積	1.55km ²
山地面積	1.20km ² (昭和50年)
市街地面積	0.35km ² (")
流路延長	1.8km
河道勾配	1/66 0~0.8km 1/41 0.8~1.8km
洪水到達時間	30分



吐出し樋管 撮影：S62

4

排水機場諸元

位置	岐阜県多治見市平和町
計画排水量	排水：2m ³ /s
管理棟構造	RC構造 一床式
主ポンプ	1m ³ /s 立軸斜流ポンプ 口径：700mm 全揚程：4.7m
ポンプ設置台数	2台
原動機	ディーゼル 84kW(116PS)
吐出し樋管	W4.22m×H4.1m 鋼製ローラゲート W1.33m×H2.1m 鋼製ローラゲート

昭和56年度完成

とぎつ地区狭窄部岩掘削

[土岐市]

- 土岐津地区では、狭窄部の河道整正として、河床・河岸から突起した岩の掘削を昭和56年度に完成した。
- あわせて昭和55年度から57年度にかけて久尻樋管を整備した。



掘削範囲 (S52)

掘削前 (S52)

掘削後 (S59)

年度別施工範囲及び掘削量

施工年度	施工範囲	掘削量
昭和52年度	55. 6k+3m ~ 55. 8k+56m	2. 530ml
昭和53年度	55. 4k+27m ~ 55. 6k+3m	2. 210ml
昭和54年度	55. 4k-123m ~ 55. 4k+27m	2. 660ml
昭和55年度	56. 4k-5m ~ 56. 4k+167. 3m	1. 890ml



掘削前 撮影:昭和53年頃



掘削後 撮影:昭和56年3月



久尻排水樋管完成時 撮影:昭和57年9月

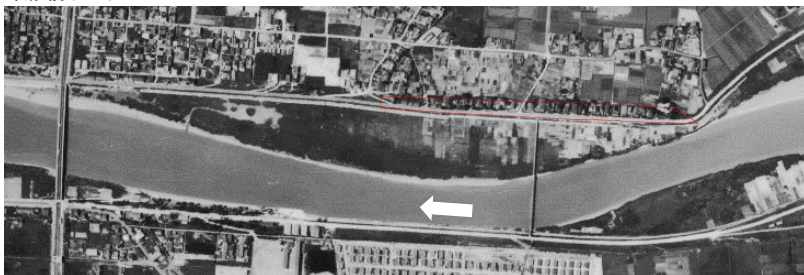
昭和56年度概成

だいとうろう地区 暫定改修

[名古屋市中川区]

- 大蠟螂地区一体の堤防上には占用家屋が連担しており、パラペットが整備されていたものの弱小堤となっていた。
- このため、土地区画整理事業の協力を得て堤内用地の確保を図り、昭和56年度に暫定改修として概成した。

改修前 (S40)



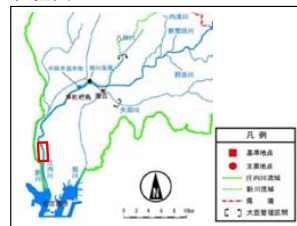
出典:国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス

改修後 (S57)



出典:国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス

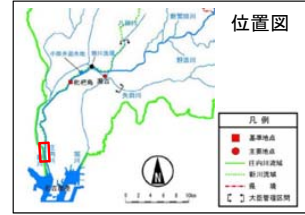
位置図



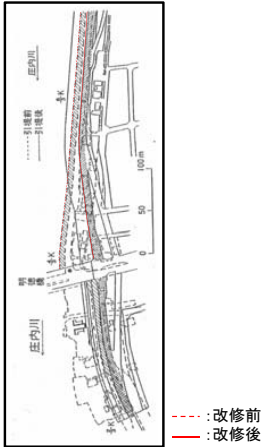
昭和58年度完成

めいとく 明德左岸引堤 [名古屋市港区]

○明德橋上流の左岸堤は極端に川側に突き出してクランク状となっていたため、川幅を狭くしていた。
 ○明德橋の老朽化も著しかったことから、橋梁の掛け替えと同時に引堤を計画し、昭和48年の用地買収から10年を経て昭和58年度に完成した。

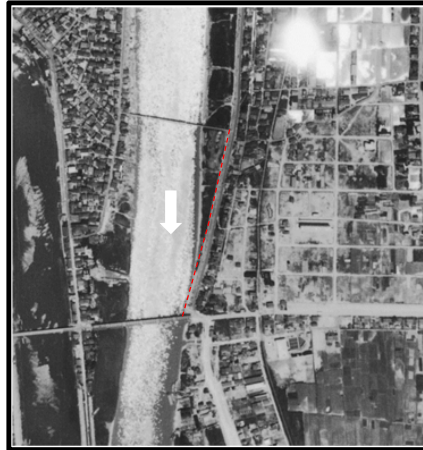


明德引堤工事の位置関係図



出典：20年記念 庄内川 P352 図-2

改修前(S40)



出典：国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス

改修後(S62)



出典：国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス

平成元年9月洪水（台風22号）

○平成元年9月洪水は、庄内川(土岐川)上流域で観測史上最大の洪水となり、支川等の各所で氾濫し、岐阜県では床上・床下併せて571棟が浸水した。

浸水状況(上:多治見市、下:土岐市)



土岐小学校付近の浸水状況



土岐市内の浸水状況



被害実績	
流域平均日雨量	162mm
床上・床下浸水	愛知県: 84 棟 岐阜県: 571 棟
氾濫面積	愛知県: 27.6 ha 岐阜県: 62.1 ha

出典：平成29年度 第1回 河川基本技術会議(参考資料)

平成元年概成

おたいたい 小田井遊水池 [名古屋市西区]

○小田井遊水池は、直轄編入以前から洪水調節施設として位置づけられており、名古屋市の公園整備と併せた治水施設整備を進めることとなり、昭和53年から用地取得を行いながら囲繞堤(いにようてい)の築造に着手した。
○昭和61年から排水水門、昭和63年から越流堤に着手し平成元年に概成した。

改修前(S24)



出典: 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス

改修中(S49)



出典: 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス

現在(H24)



出典: 庄内川河川事務所

往古の小田井周辺

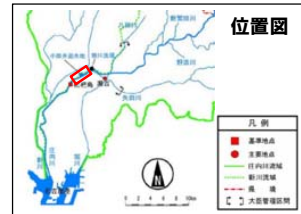


出典: 20年記念 庄内川 P347 図-4

改修中(H2)



出典: 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス



位置図

平成6年

おりがわ 小里川ダム 転流開始 [瑞浪市・恵那市]

○平成6年3月17日に、約1年をかけて建設された仮排水路(転流工)が完成し、ダム本体工事に備え、小里川の流れを迂回する転流を開始した。

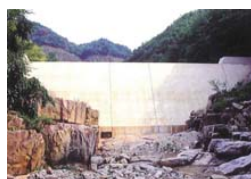


転流開始 (平成6年3月17日)



仮排水路 吐口

上流仮締切完了(平成6年6月)



転流工の主要諸元

設計対象流量	仮排水路130m ³ /S
転流方式	仮排水路トンネル方式
位置	左岸
仮排水路トンネル	
延長	333.0m
断面	4.5m 2r型標準馬蹄形
水路勾配	1:30
呑口敷標高	標高310.00m
吐口敷標高	標高292.50m
呑口	
型式	矩形鉄筋コンクリート構造
形状	延長 7.25m 勾配 1:1.5 幅 6.32m~4.5m 高さ 6.5m~9.0m
吐口	
型式	逆台形鉄筋コンクリート構造
形状	延長 25.0m 幅 4.5m 高さ 3.0m
上流一次仮締切	
型式	フィルタイプ構造
形状	延長 12.5m 堤頂幅 2.0m 高さ 2.5m 上下流勾配 1:1.5
上流二次仮締切	
型式	重力式コンクリート構造
形状	延長 39.5m 堤頂幅1.3m 高さ 9.5m 上下流勾配 上流鉛直 下流 1:0.5

平成7年度

へいわまち
平和町引堤 [多治見市]

○平和町の左岸堤は、屈曲し右岸に突出しており、川幅を狭くしていた。
○背水の影響や支川の合流で市街地の計画流量時の水位が高くなってしまったため、河道計画検討の結果、引堤を計画し、昭和58年から用地買収に着手し、平成元年度から工事着手し平成7年度に完成した。

改修前(S51)



出典:国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス

改修中(H2)



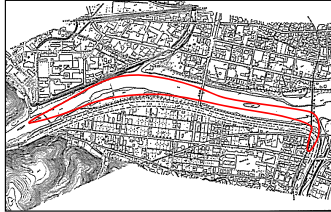
出典:国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス

現在(H28)



出典:庄内川河川事務所

引き堤区間平面図



---:改修前
---:改修後

平成11年6月洪水 (梅雨前線)

○平成11年6月洪水は、庄内川(土岐川)上流域の瑞浪市や土岐市内に大きな浸水被害をもたらした。

浸水状況(上:瑞浪市、下:土岐市)



庄内川上流部の洪水状況(56.6k付近)



土岐市内の浸水状況



出典:平成29年度 第1回 河川基本技術会議(参考資料)

被害実績	
流域平均日雨量	100mm
床上・床下浸水	愛知県: 1 棟 岐阜県: 120 棟
氾濫面積	岐阜県: 11 ha

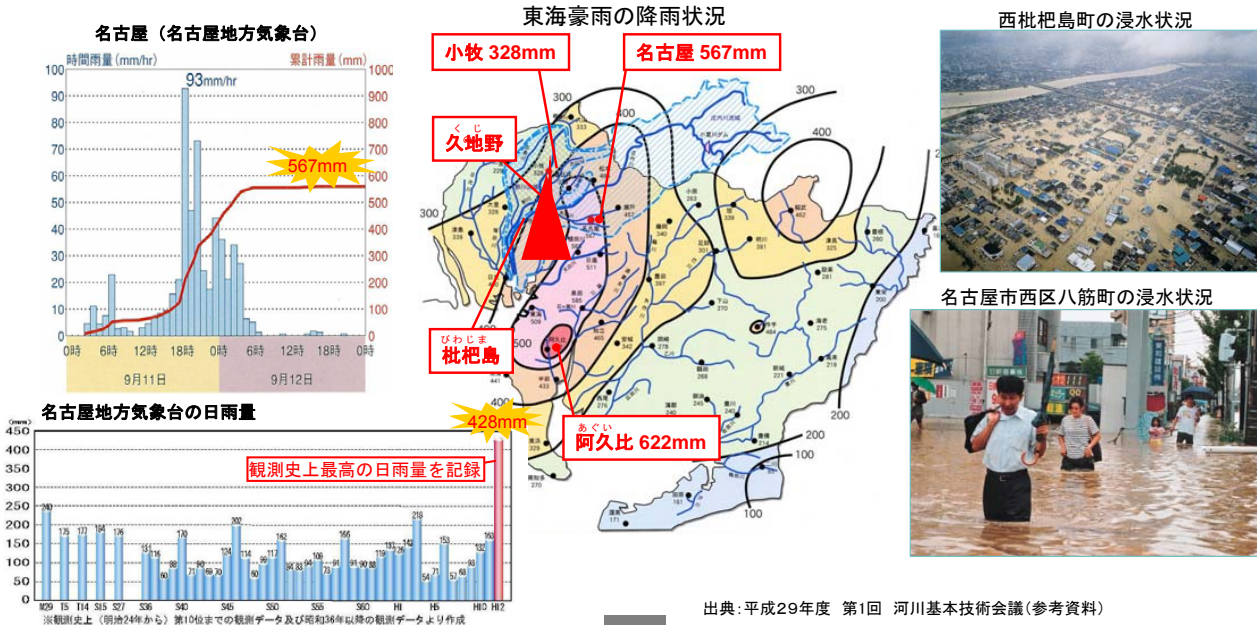


出典:土岐川復旧事業のあゆみ

平成12年

東海豪雨（秋雨前線・台風14号）1/2

○平成12年9月東海豪雨は、庄内川下流域で観測史上最大の洪水を引き起こし、2日間で年間の総雨量の1/3にもおよぶ567mmを記録し、名古屋市北部を流れる庄内川・新川の沿川に大きな被害をもたらした。

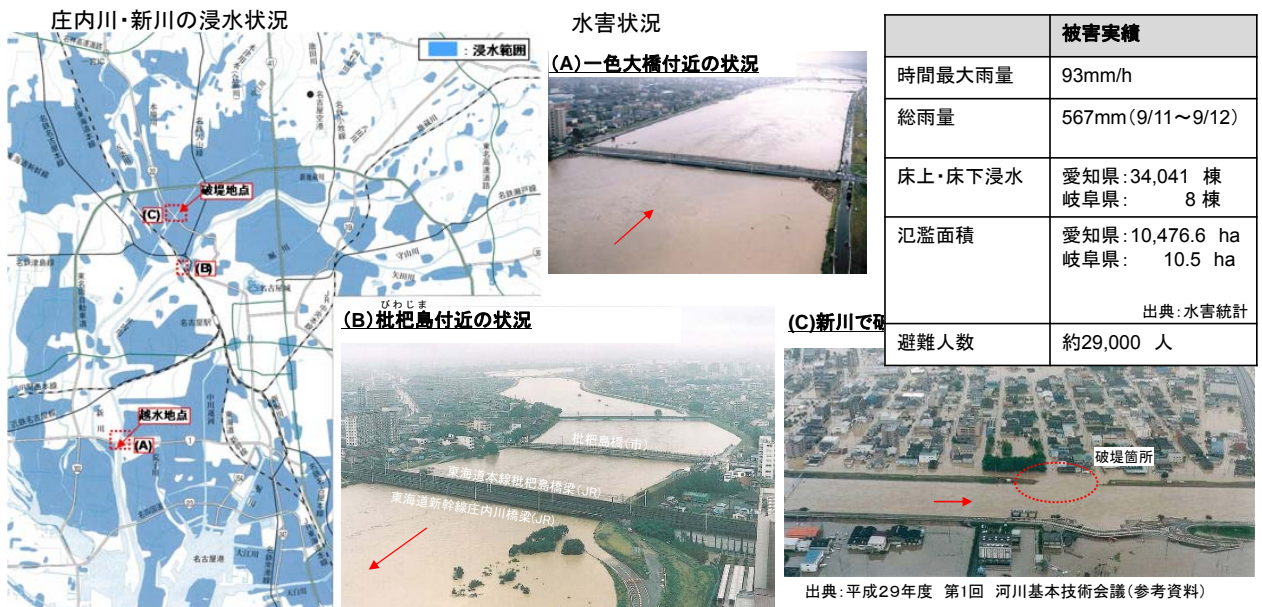


13

平成12年

東海豪雨（秋雨前線・台風14号）2/2

○庄内川では、7.0k~22.0kの約15km区間で計画高水位を超過した。
 ○一色大橋下流右岸（4.4k付近）で越水、新川洗堰（19.4k）では新川に越流した。
 ○新川では、西区あし原地先の左岸堤防（16.0k付近）で約100mにわたり堤防が決壊した。



14

平成13年 おりがわ 小里川ダム 本体コンクリート打設完了 [瑞浪市・恵那市]

○平成13年10月31日に、ダム本体のコンクリート打設が完了。
 ○平成8年9月に打設を開始し、RCD工法により約5年間で77万m³のコンクリート打設を行った。

平成8年9月5日 本体初打設



平成9年6月5日 定礎式



位置図



平成8年9月



平成10年6月



平成11年10月



平成9年8月



平成10年12月



平成12年12月



平成13年10月31日 打設完了



打設完了式 77万m³達成



平成14年 ふじ まえ ひがた 藤前干潟 ラムサール条約湿地登録 [名古屋市港区]

○ラムサール条約は、昭和46年2月2日にイランの都市ラムサールで採択された湿地に関する条約であり、正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」である。
 ○庄内川・新川・日光川の河口を中心とする地域で、伊勢湾奥部に残された唯一の大規模な干潟。特に、シベリア等北半球の繁殖地とオセアニア等、南半球の越冬地を往復するシギ・チドリ類の中継地として重要で、国内でも最大規模のシギ・チドリ類の中継地である。

日本のラムサール条約登録湿地



出典：日本のラムサール条約湿地

藤前干潟(登録湿地)

登録年月日：平成14年11月18日
 面積：323ha



藤前干潟における主な活動

①清掃活動②藤前干潟協議会③藤前干潟拠点施設における活動



藤前干潟クリーン大作戦時の清掃活動

○平成16年から毎年春・秋の2回、庄内川・新川の河口部付近にて河川清掃活動。
 ○沿川流域の住民(学区)、市民団体、地元企業等から参加し、毎回2,000人を越える。

平成14年度

おりがわ

小里川ダム 試験湛水開始

[瑞浪市・恵那市]

○平成14年12月16日、小里川ダムは試験湛水を開始した。
 ○開始後は、順調に水位が上昇し、平成15年4月26日に洪水時最高水位(EL.400.5m)に到達、以後水位を低下し、同年6月1日には最低水位(EL.353.0m)となり試験湛水を完了した。

閉塞ゲート



「小里川ダム湛水」開始(平成14年12月16日)



洪水時最高水位に到達(平成15年4月26日)



堤内仮排水路を閉塞



湛水開始前の小里川ダム



最低水位到達



満水となったおりがわ湖



位置図



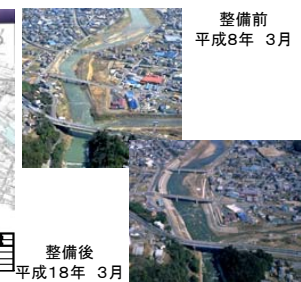
平成15年度完成 土岐川河川災害復旧等関連緊急事業[多治見市・土岐市]

○平成11年6月30日の梅雨前線豪雨による災害に対し、岐阜県・国土交通省により下流部の流量増対応として河川災害復旧等関連緊急事業を和合地区、土岐地区、多治見地区で実施することを決め和合地区を岐阜県、土岐・多治見地区を国土交通省で行い、平成11年度から事業を実施し、平成15年度に完成した。



■被害状況(11年6月29~30日洪水)

地区	瑞浪市	土岐市
浸水面積(ha)	3.2	8.6
床上浸水(戸)	7	24
床下浸水(戸)	10	51
半壊(戸)	-	1
一部破損(戸)	-	1
合計(戸)	17	77



■事業概要

区間	地区	延長	事業費(百万円)
岐阜県管理区間 (災害関連事業)	瑞浪市	500m	1,800
	和合地区	(650m)	(247)
国土交通省 管理区間	土岐地区	3,400m	7,908
	多治見地区	3,000m	2,492
全体	3地区	6,900m (7,550m)	12,200 (12,447)

平成15年開始

庄内川アダプト活動

○庄内川アダプト活動は、庄内川沿川に暮らす地域の皆さんと、より良い河川環境を実現し、誇りを持てる庄内川にしていくための市民や企業による自主的な活動であり、庄内川河川事務所がサポートする活動です。
○平成15年から始まり、登録は40団体、活動は年間300回以上実施（平成31年3月末現在）



名古屋富士ボーイズ愛知守山 清掃活動



王子製紙(株)春日井工場 清掃活動

活動例の紹介



土岐川・庄内川流域ネットワーク
ピオトープを活用した環境学習イベント「志段味ピオトープで遊ぼう！」



かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議 川の環境学習

平成16年度完成

けきじん

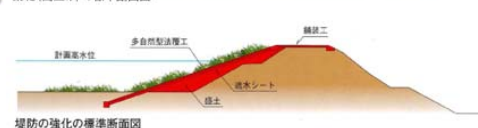
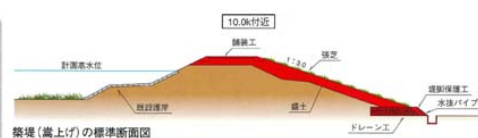
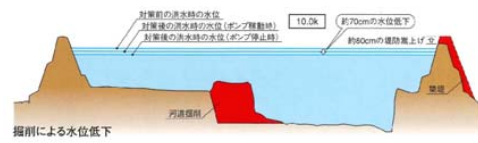
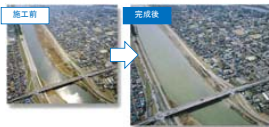
庄内川河川激甚災害対策特別緊急事業 [名古屋市中村区・中川区]

○平成12年9月東海豪雨により甚大な被害を受けたため、再度災害防止対策として「河川激甚災害対策特別緊急事業」が採択され、平成16年度に完成した。



●河道の掘削・築堤

河道の掘削により水位を低下させるとともに、高さの不足する堤防の嵩上げを行います。なお、掘削にあたり自然な水辺が広がるように工夫し、豊かな自然環境の保全にも努めます。



●堤防の強化

漏水、法崩れなどが多数発生した状況を踏まえ、必要な堤防の強化を行います。

●洗堰の改築

河道の掘削などによる水位の低下及び洗堰の嵩上げにより、東海豪雨における洗堰からの最大越水量を270m³/sから70m³/sに低減します。

●遊水池越流堤の改築

越流堤の嵩上げにより、東海豪雨におけるピーク流量を約140m³/s低減します。

平成16年

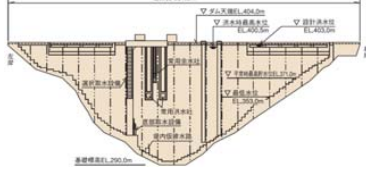
おりがわ
小里川ダム建設事業完成 [瑞浪市・恵那市]

○平成16年3月20日に、小里川ダム竣工式典が開催され、昭和57年に事業着手して以来22年の歳月と約981億円の事業費を費やした小里川ダム建設事業が完成した。

小里川ダム建設事業完成



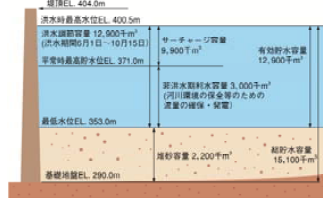
ダム上流面図



ダム下流面図



貯水池容量配分図



小里川ダムの諸元

位置	左岸/岐阜県瑞浪市陶町水上 右岸/岐阜県恵那市山岡町田代
型式	重力式コンクリートダム
堤高	114m
堤頂長	331.3m
堤体積	750,000m ³
非越流部標高	標高404.0m
集水面積	55km ²
湛水面積	0.55km ²
総貯水容量	15,100,000m ³
有効貯水容量	12,900,000m ³
平常時最高貯水位	標高371.0m
洪水時最高水位	標高400.5m
設計洪水水位	標高403.0m

小里川ダム竣工式典
(平成16年3月20日)



平成16年開始

ふじ まえ ひがた
藤前干潟クリーン大作戦 [名古屋市港区]

○藤前干潟クリーン大作戦は、平成16年から毎年春・秋の2回、庄内川・新川の河口部で実施され、平成14年にラムサール条約に指定された藤前干潟の環境保全に寄与している。
○参加者は、沿川流域の住民、市民団体、企業等で、近年では毎回1,000人を越える。



集合写真 (平成30年 秋 中堤会場)



活動状況 (平成30年秋 庄内川左岸 学区会場)



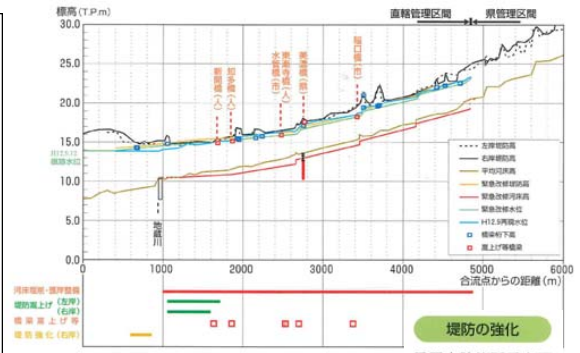
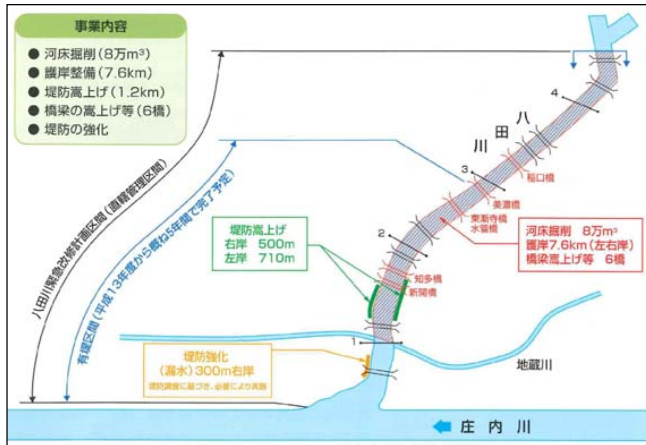
活動状況 (平成30年秋 庄内川左岸 学区会場)



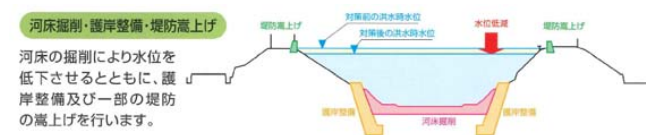
台風の高潮によりペットボトルが大量に漂着 (平成30年秋 中堤会場)

平成18年度完成 はったがわ 八田川緊急改修事業 [名古屋市守山区・春日井市]

○平成12年9月東海豪雨により大きな被害を受けたため、再度災害防止対策として平成13年度から「緊急改修」を実施し、平成18年度に完成した。



橋梁名	位置 (庄内川からの距離)	種別	対策工
新開橋	1.6k + 80m	市人遊橋	高上げ
知多橋	1.8k + 60m	市人遊橋	高上げ
水管橋	2.4k + 80m	市水管橋	高上げ
東漸寺橋	2.4k + 80m	市人遊橋	高上げ
美濃橋	2.6k + 150m	県道	橋脚補強
稲口橋	3.4k + 20m	市道	高上げ

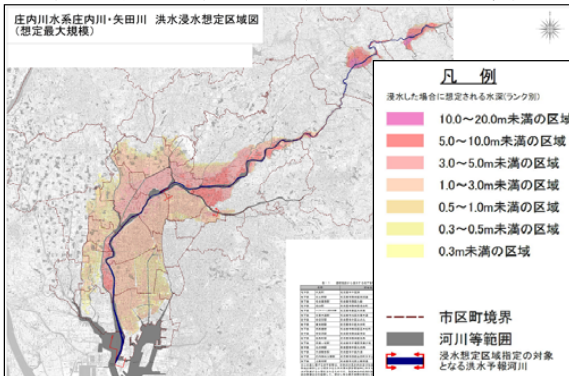


平成19年及び28年公表 浸水想定区域図

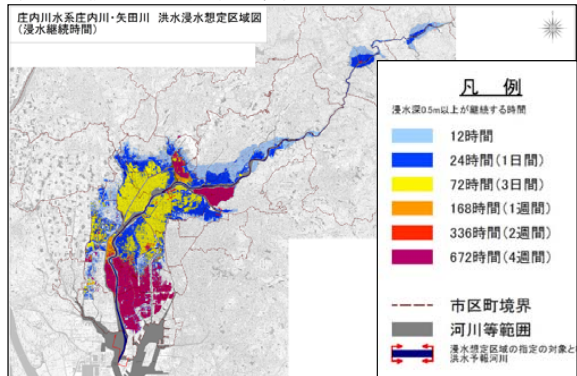
○庄内川河川事務所では、水防法の規定により指定された浸水想定区域および想定される水深等を示した、計画規模の浸水想定区域図を平成19年8月に作成・公表した。

○そして、平成27年の水防法改正に伴い、想定し得る最大規模の降雨により発生する洪水により浸水が想定される区域と、浸水の深さ、浸水が継続する時間 および 家屋倒壊等氾濫想定区域を平成28年12月に指定し公表した。

洪水浸水想定区域 (浸水範囲・浸水深) : 想定最大規模



浸水継続時間: 想定最大規模



<家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)>
洪水時に氾濫した水の力により、木造家屋が流出・倒壊することが想定される区域

<家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)>
洪水時に、堤防が侵食され、その背後にある家屋が流出・倒壊することが想定される区域

想定雨量	計画規模	想定最大規模
庄内川流域 愛知県区間	376mm/24h	578mm/24h
庄内川流域 岐阜県区間	305mm/24h	637mm/24h

平成19年開始

子供達への環境教育の支援

○平成19年から小学生の「総合学習」および園児の「体験学習」を市民団体と連携して支援している。
○子供達が、河川を通じて自然や生物、水質調査を楽しく体験することにより、生活と環境とのつながりを実感し、河川環境について関心を持つことを目的としている。

小学生の総合学習



タモ網で魚を捕まえるガサガサ体験



捕った生物の観察指導



濁度計・パックテストによる水質調査

園児の体験学習



タモ網で魚を捕まえるガサガサ体験



捕った生物の観察指導



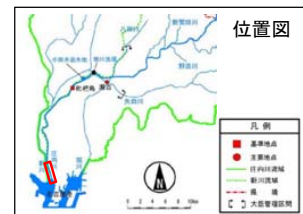
捕った生物に触れるお魚タッチ

25

平成20～28年

みなと川まちづくり [名古屋市港区]

○みなと川まちづくりを考える会は、庄内川の河口部の干潟やヨシ原に生息・生育する野鳥や水生生物等、豊かな河川・干潟環境を保全しながら水辺の整備・利活用を推進する会であり、平成20年に発足し平成28年に閉会した。
○主な活動は、野鳥観察やクリーン大作戦等、藤前干潟の保全活動等。



小学生による環境学習の様子



小学生によるヨシ刈り体験



名古屋市野鳥観察館による野鳥観察会のお知らせ



H28.10撮影

庄内川河口部で実施されているクリーン大作戦



H28.10撮影



名古屋市野鳥観察館による観察会 (H28.9)

26

平成21年発足

たじみ 多治見かわまちづくり [多治見市]

- 多治見かわまちづくりは協議会、土岐川沿川の商店街等のまちづくりや、市民病院の整備と連携したかわまちづくりを進めることを目的に、平成21年に発足した。
- 近隣の土岐川観察館(多治見市)は、市民団体の交流・環境学習等の活動拠点となっている。
- 多治見市による夢広場の整備や市民病院の整備に合わせ、管理用通路・階段護岸の整備した。



多治見市によるまちづくり(本町オリベストリート)



多治見まつり(夢広場)



多治見市民病院と繋がるブリッジの利用状況



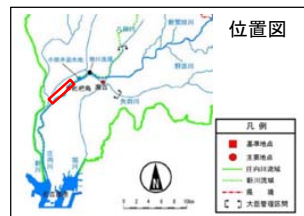
「土岐川観察館」による環境学習



たじみ陶器まつり(本町オリベストリート)

平成24年発足 清須・あま・大治かわまちづくり [清須市・あま市・大治町]

- 清須・あま・大治かわまちづくり協議会は、平成24年に防災拠点「みずとびあ庄内」における平常時の利活用を図り、活気ある河川敷の創出を目指し、自治会・市民団体・学校・2市1町・国土交通省で構成し、発足した。
- 主な活動は、河川美化・清掃、草刈り、イベント(親月の夕べ等)、環境学習支援活動等、川を活用した地域活性化に取り組んでいる。



清須市・あま市・大治町 かわまちづくり協議会調印式



「庄内川水辺の散策路及び大治町庄内川河川敷公園」第2回ウォーキング



西枇杷島まつり(花火) 約22万人参加(平成29年度実績)



みずとびあ庄内朝市の様子(月1回の実施)



イベント「りばーびあ庄内川」によるEボート体験

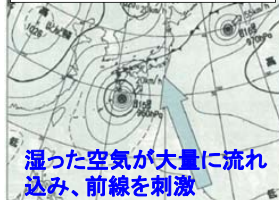


地元小学校による環境学習の様子

平成23年9月洪水（台風15号） 1/2

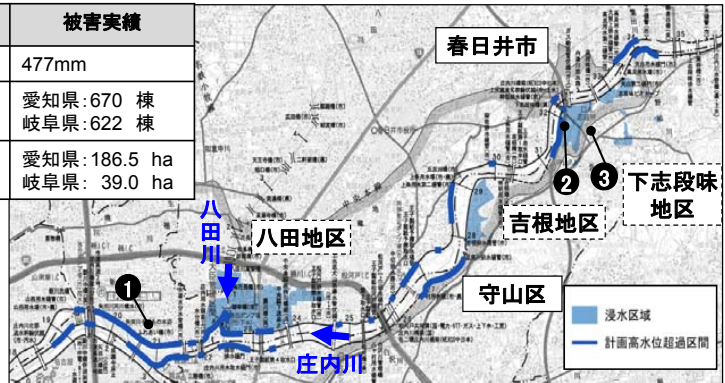
- 平成23年9月台風15号による出水では、台風からの暖かく湿った空気が大量に流れ込み、停滞する秋雨前線を刺激し、近年では最大の出水となった。
- 中流部では断続的に計画高水位を超過し、下志段味地区及び支川の八田川では越水はん濫による被害が発生し、吉根地区では内水氾濫が発生した。

平成23年9月20日9時の天気図



出典：平成29年度 第1回
河川基本技術会議（参考資料）

被害実績	
総雨量	477mm
床上・床下浸水	愛知県: 670 棟 岐阜県: 622 棟
氾濫面積	愛知県: 186.5 ha 岐阜県: 39.0 ha



① 水橋上流



② 下志段味地区越水地点



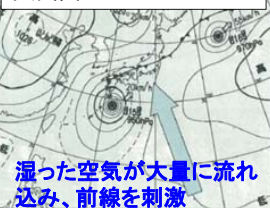
③ 志段味地区浸水状況



平成23年9月洪水（台風15号） 2/2

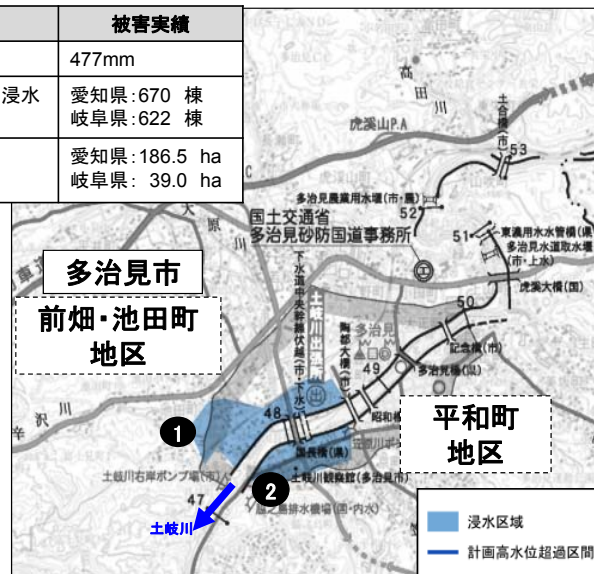
- 平成23年9月台風15号による出水では、台風からの暖かく湿った空気が大量に流れ込み、停滞する秋雨前線を刺激し、近年では最大の出水となった。
- 上流の多治見地区では内水氾濫が発生した。

平成23年9月20日9時の天気図



出典：平成29年度 第1回
河川基本技術会議（参考資料）

被害実績	
総雨量	477mm
床上・床下浸水	愛知県: 670 棟 岐阜県: 622 棟
氾濫面積	愛知県: 186.5 ha 岐阜県: 39.0 ha



① 平和町五丁目
交差点付近



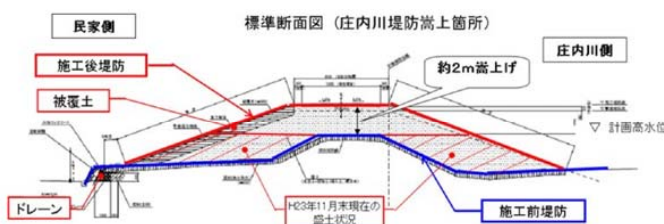
② 平和町八丁目
（脇之島排水機場
屋上から）



出典：平成29年度 第1回 河川基本技術会議（参考資料）

しだみ
平成24年度完成 志段味地区災害復旧工事・H23災害対策緊急事業[名古屋市守山区]

○平成23年9月台風15号の豪雨により大きな被害を受けたため、再度災害防止対策として「再度災害防止対策」を実施し、平成24年度出水期までに完成した。



たじみ
平成24年度計画策定 多治見市浸水対策実行計画 [多治見市]
平成30年度関連河川整備概成

○平成23年9月台風15号豪雨で発生した浸水被害の原因と浸水対策を「多治見市浸水対策実行計画」として、関係機関の協議会により平成24年7月に策定された。
○庄内川河川事務所は、河川整備として、脇之島川の合流処理、脇之島川の整備及び土岐川の水位低下対策を実施し平成30年度に関連河川整備を概成した。



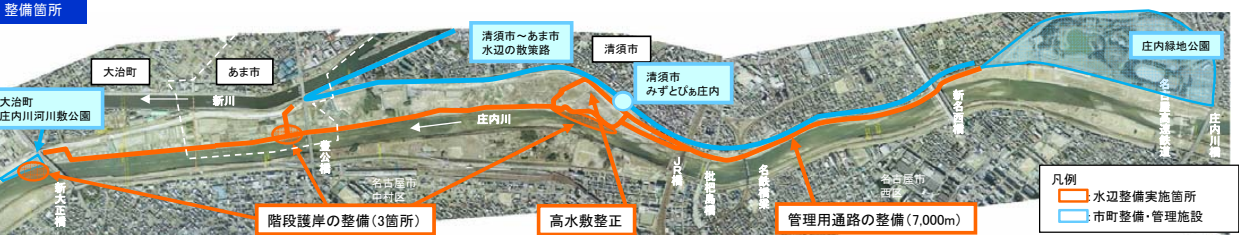
平成20～29年度 庄内川河口部水辺整備事業 [名古屋市港区]

- 平成20年度～平成29年度に実施し、工事は平成24年度に完成した。
- 水辺空間の安全性や利便性を確保するため、散策路としても利用可能な河川管理用通路、階段を整備した。



平成18～29年度 西枇杷島地区水辺整備事業 [清須市]

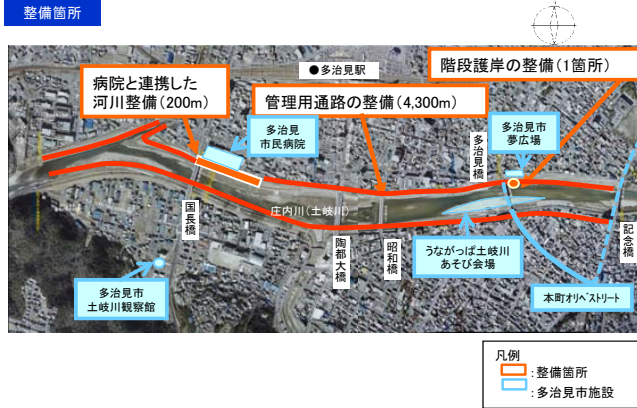
- 平成18年度～平成29年度に実施し、工事は平成25年度に完成した。
- 「庄内緑地公園」から清須市の「みずとびあ庄内」、あま市を経て大治町の「庄内川河川敷公園」に至る2市1町を結ぶ管理用通路、階段護岸、高水敷整正を整備した。



とよおか
平成17～29年度 豊岡地区水辺整備事業 [多治見市]

- 平成17年度～平成29年度に実施し、工事は平成25年度に完成した。
- 多治見市による夢広場の整備や市民病院の整備にあわせ、管理用通路、階段護岸を整備した。

整備箇所



病院と堤防をつなぐ連絡橋を用い川を見ながらハビリティに励む入院患者

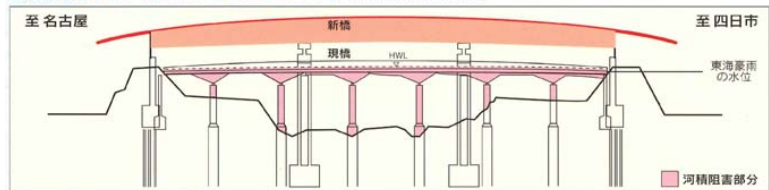


平成26年完了 特定構造物改築事業(一色大橋) [名古屋市中川区]

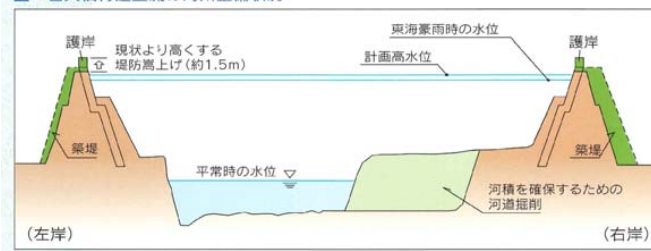
- 平成11年6月西日本から北日本の広い範囲で降雨があり、各地で豪雨となり、上流部で床上浸水31棟などの被害があった。
- この洪水を契機に一色大橋では「特定構造物改築事業」が平成12年度に採択され、平成26年度に事業が完了した。



■橋脚は2本に、橋の高さも高上げされます(現橋と新橋の横断模式図)



■一色大橋付近上流の河川整備状況



平成26年開始

河川協力団体制度

- 河川協力団体制度とは、河川の維持、河川環境の保全などの河川の管理につながる活動を自発的に行っている民間団体等を法律上位置付け、河川管理者と河川協力団体が充実したコミュニケーションを図り、互いの信頼関係を構築することで、河川管理のパートナーとしての活動を促進し、地域の実情に応じた河川管理の充実を図ることを目的として制度化されました。
- 平成26年から始まり、登録は10団体(平成31年3月末現在)



藤前干潟クリーン大作戦(藤前干潟クリーン大作戦実行委員会)



河川管理者と協働による魚道工事(矢田・庄内川をきれいにする会)

活動例
の紹介



庄内川水辺の散歩路ウォーキング大会(清須・あま・大治川まちづくり協議会)



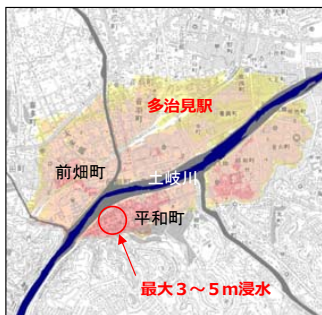
土岐川魚類1,000匹調査(河川自然環境保全復元団体リバーサイドヒーローズ)

平成28・30年度 多治見市タイムライン(多治見市浸水事前防災行動計画)

- 台風に伴う大雨により発生する内水氾濫や、土岐川からの外水氾濫に備えたタイムラインを作成するため、平成27年度に国(事務所、気象台)、県、市、消防団、住民代表から構成される検討会を設置し、平成28年3月に「多治見市浸水タイムライン(H27年度版)」をとりまとめた。
- 平成30年8月には、これまでの振り返り及び浸水対策実施に伴う多治見市における避難勧告等の発令基準見直しを踏まえて、多治見市浸水タイムラインを見直し、平成30年度運用版としてとりまとめた。

多治見市浸水タイムラインの概要

- 伊勢湾台風と同じ進路の台風を想定
- 年超過確率1/100の降雨に伴い、内水氾濫後に土岐川の水位が上昇して決壊、最大浸水深3~5mとなる被災シナリオを想定
- 時系列に各機関の防災行動を整理



タイムライン(平成30年度運用版)

- 台風接近に伴う気象情報、降雨や土岐川の水位、内水氾濫の状況に応じて、タイムラインレベル1(立ち上げ)~レベル5(緊急対応)を設定
- 各レベルでの防災行動と対応者(多治見市、国、県、県警察、消防団、自治会)を明示

多治見市浸水事前防災行動計画(タイムライン) (平成30年度運用版) 一部抜粋

対応要請	行動要請		発令主体				
	行動内容	行動項目	国	県	多治見市	消防団	自治会
27-1	防災対応計画の策定と共有(念書送達)						
27-1-1	災害対策本部長の意思決定	27-1-1 内水はん濫による浸水想定エリアの避難準備・高齢者等避難開始の発令(※発令していない場合、左岸ポンプ場ポンプ井水位 2.7mを基準)			○		○
27-2	内水排除活動の実施	27-2-1 自備式ポンプによる内水排除設備 27-2-2 自排式ポンプ場の稼働開始					
28-1	内水はん濫対応の実施(外水はん濫に対して安全が確保できる範囲で実施)(実行)						
28-1-1	はん濫対応を考慮した災害対応支援(人)の現場到着の確保						○
28-1-2	はん濫対応を考慮した災害対応支援(物)の現場到着の確保						○
28-2	関係機関・部署への応援要請	28-2-1 追加応援場所の決定 28-2-2 庄内川河川事務所への追加応援要請 28-2-3 自衛隊および緊急消防援助隊の高圧要請を機に入れた、風評への情報提供					

タイムラインの効果

- (空振りを恐れない)早めの避難情報等の発令
- 災害対応の明確化による職員の防災意識の向上
- 防災関係機関等との、“顔の見える関係性”の構築

平成29・30年度 名古屋駅地区地下空間タイムライン(共通行動版(案))1/2

- 台風の接近に伴い名古屋駅地区の地下街が、浸水することによる人的被害、施設被害等を軽減するため、名古屋駅地区の地下街等管理者が行うべき防災行動を地下街等管理者と行政機関が連携して平成29年度にとりまとめた。
- 共通行動項目としては、①浸水防止対策、②早期退出の促進、③営業に係わる判断、④地下街等管理者(テナント含む)の完全退避から構成されており、気象・河川情報や名古屋市が地下街等管理者に提供する情報を踏まえて実施する。

庄内川の決壊による浸水想定



名古屋駅における浸水イメージ

(ハザード)

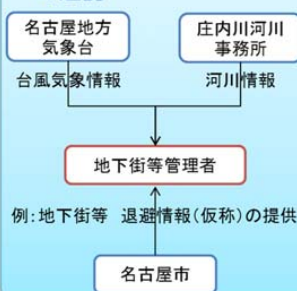
- > 名古屋直撃型の台風を想定
- > 確率規模1/200の降雨
- > 庄内川左岸が決壊

3つのポイント

①4つの共通行動項目

- 1 浸水防止対策**
→河川氾濫の前に想定される内水氾濫に備え、地下街等の入口に止水板や土のうを設置。
- 2 早期退出の促進**
→館内アナウンス等を活用し、来街者の地下空間からの早期退出を促進。
- 3 営業に係わる判断**
→営業の継続について検討・判断。営業停止後には地下通路の閉鎖も実施。
- 4 地下街等管理者の完全退避**
→営業停止後、最終的に地下街等管理者(テナント含む)が地下空間から完全退避。

②情報共有による関係者間の連携



③早目の判断



平成29・30年度 名古屋駅地区地下空間タイムライン(共通行動版(案))2/2

期待される効果

